

三隅川水系 河川整備計画

付属資料

～アユ泳ぐ 自然豊かな ^{みずす}水澄みの

^{とわ}永久に伝えるやすらぎの ^{かわと}川音～

平成20年12月

島 根 県

- 目 次 -

【Ⅰ．河川整備計画に関する事項】

| | |
|----------------|------|
| 1. 河川法改正の流れ | 付- 1 |
| 2. 改正の趣旨 | 付- 1 |
| 3. 河川整備の理念 | 付- 2 |
| 4. 河川整備計画の位置付け | 付- 2 |
| 5. 三隅川水系管理区間 | 付- 3 |

【Ⅱ．三隅川流域の基礎的事項に関する資料】

| | |
|---------------------------|-------|
| 1. 三隅川流域の自然環境に関する資料 | |
| (1) 気象 | 付- 4 |
| (2) 地形 | 付- 7 |
| (3) 地質 | 付- 8 |
| (4) 林相 | 付- 9 |
| (5) 動植物 | 付- 10 |
| 2. 三隅川流域の社会環境に関する資料 | |
| (1) 人口の推移 | 付- 14 |
| (2) 産業構造の変遷 | 付- 15 |
| (3) 地名の由来 | 付- 16 |
| (4) 文化財・遺跡 | 付- 17 |
| (5) 景観と観光 | 付- 18 |
| (6) 伝統芸能・風習 | 付- 20 |
| (7) 土地利用 | 付- 24 |
| 3. 三隅川流域の治水・利水・河川環境に関する資料 | |
| (1) 治水事業の概要 | 付- 25 |
| (2) 被災写真 | 付- 29 |
| (3) 治水事業実施状況 | 付- 31 |
| (4) 主要地点の流況 | 付- 32 |
| (5) 水利用 | 付- 33 |
| (6) 漁業 | 付- 35 |
| (7) 河川環境整備の概要 | 付- 36 |
| (8) 河川水質 | 付- 38 |
| (9) 住民アンケート | 付- 40 |

1. 河川法改正の流れ

わが国の河川制度は明治 29 年に旧河川法が制定されて以来、2 度の改正を経て現在に至っている。特に昭和 39 年に制定された新河川法では水系一貫管理制度の導入など、治水、利水の体系的な制度の整備が図られ、今日の河川行政の規範としての役割を担ってきた。しかしながらその後の社会情勢の変化等により河川の担うべき役割、河川へ求める社会のニーズは大きく変化している。現在では、河川は治水、利水の役割を担うだけでなく、うるおいのある水辺空間として、また生物の多様な生息・生育環境等として捉えられ、地域の個性を活かした川づくりが求められるようになってきた。こうした変化を踏まえて、平成 8 年 12 月河川審議会において「社会経済の変化を踏まえた今後の河川制度のあり方」が提言され、これに基づき建設省では新河川法の改正の検討を行い平成 9 年第 140 国会に「河川法を一部改正する法律案」を提出し、同国会において同法案は可決成立し、平成 9 年 6 月に現在の河川法が成立した。

河川法改正の流れの概要を図 1-1 に示す。

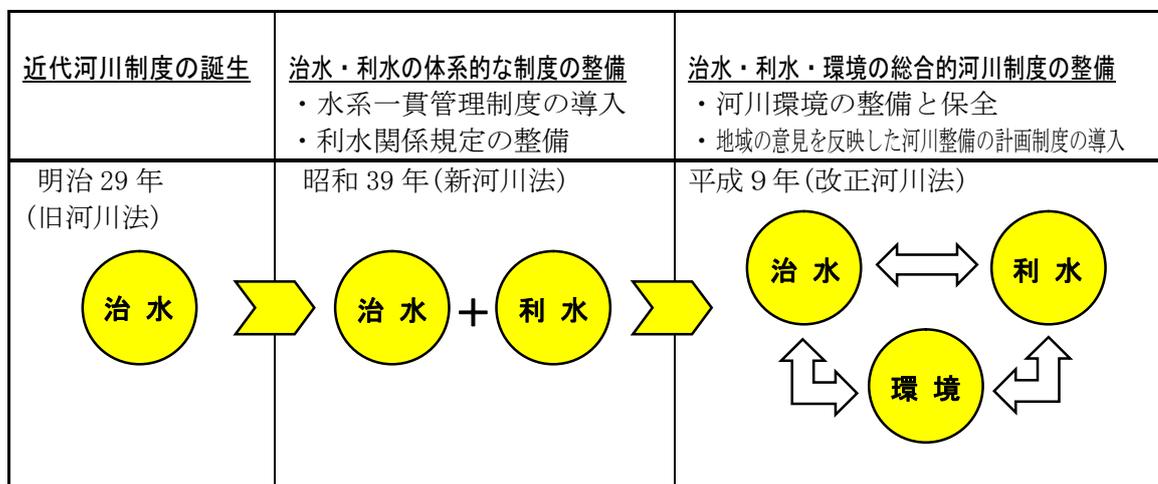


図 1-1 河川法改正の流れ

2. 改正の趣旨

改正河川法(平成 9 年)において、河川法第 1 条で新河川法(昭和 39 年)にはなかった「河川環境の整備と保全」が掲げられ、河川管理の責務の一つとして新たに位置付けられた。これにより河川法の目的に「河川環境」が明記され、現在の河川事業に求められる環境関連の整備が実態に即したものとなることを目指している。また、近年重視されている河川に係わる生態系の保全、河川の水と緑の環境、河川空間のアメニティといった要素を捉えた川づくりを行うことを目指している。ただし「河川環境の整備と保全」は河川の総合的管理の一内容として追加されたものであり、河川環境だけを特別に重視すべきという趣旨ではない。河川の管理は治水、利水、環境の総合的な河川管理が確保されるように適正に行わなければならない。実際には環境の目的と治水及び利水の目的が相反する場合もあるが、その場合にはそれぞれの目的を対立的に捉えるのではなく、総合的な河川管理が行えるよう個別の河川の河川環境の状況や治水安全度等を考慮し、地域の意向を踏まえた上で適宜判断していかなければならない。

3. 河川整備の理念

川づくりは流域の視点に立って人と水との関わりを再構築を図りながら、災害に強く渇水に対しても安全で平常時を見据えた川づくりを行い、そこに住む人々の地域づくりを支援するものとなる必要がある。また、整備にあたっては自然環境の保全に努め、水と緑の空間を提供する河川環境の創出を図っていく必要もある。そこで「安全・活力・美しさ」をスローガンに掲げて治水、利水、環境を総合的に捉えた河川整備を積極的に推進し、「住みよい島根」、「住みたい島根」の実現に寄与する川づくりを目指す。また、地域住民との密接な連携を図りながら河川整備に対するニーズに的確に応え、河川の特性と地域の風土・文化等の実状に応じた河川整備を推進する。

4. 河川整備計画の位置付け

河川整備基本方針(河川法第16条)は、洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する治水計画、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持に関する利水計画及び河川環境の整備と保全に関する環境計画について、河川整備の基本となるべき方針に関する事項を長期的な計画として定めたものである。

また、河川整備計画(河川法第16条の2)の位置付けとしては、河川整備基本方針を踏まえ今後20～30年後を目途とした整備内容を定めたものであり、他の関連計画等との整合を図るとともに、具体の「川づくり」の姿を地域に提示しつつ地域の意見を反映しながら策定・推進するものである。

本計画は現時点の課題や河道状況等に基づき策定するものであり、河道状況や社会環境の変化等に応じ適宜見直しを行うものとする。

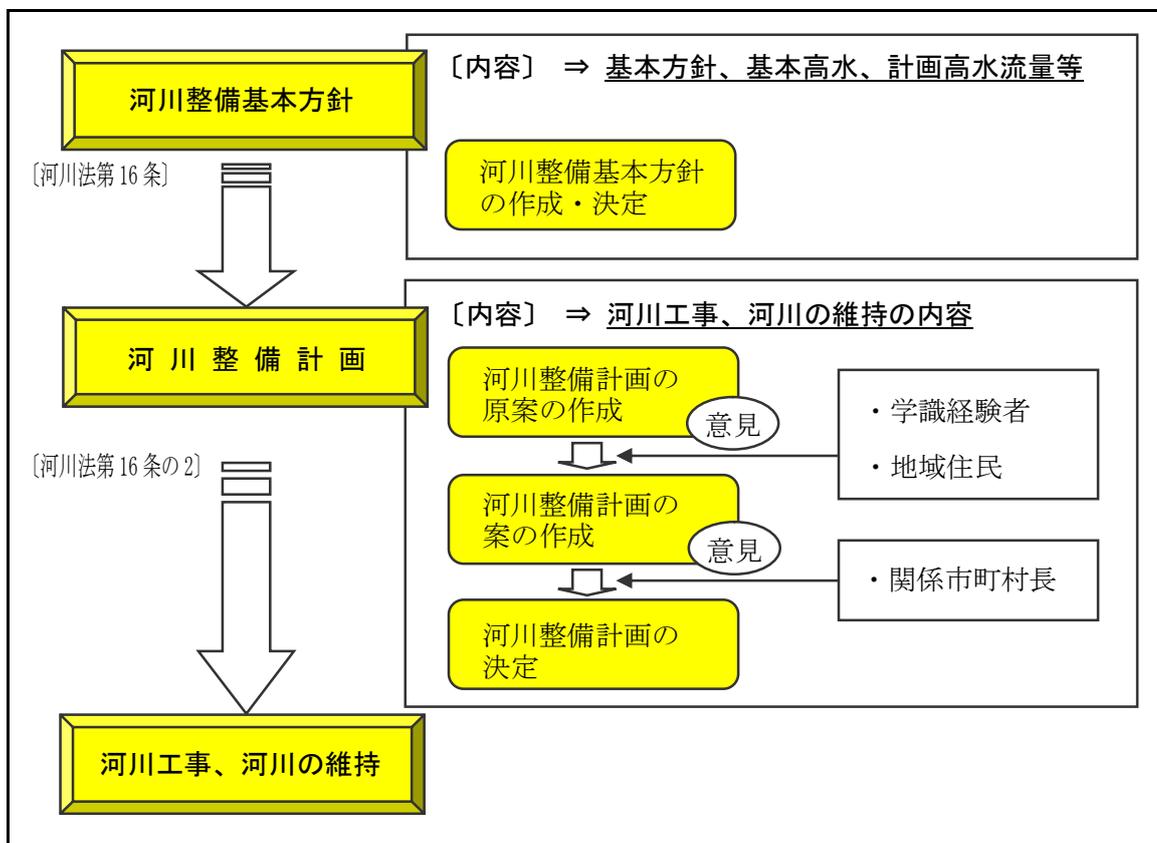


図 4-1 河川整備基本方針～整備計画～工事实施までの流れ

5. 三隅川水系河川管理区間

三隅川水系の島根県管理区間を表 5-1 に示す。

表 5-1 三隅川水系管理区間一覧

| 河川名 | 河川延長 km | 流域面積 km ² | 指定年月日 | 告示番号 | 指定区間 | | 備考 |
|------------|------------|-------------------------|--------------------------|-----------------------------|-------------------------------|----------|----------------------|
| | | | | | 上流端 上段(左岸) 下段(右岸) | 下流端 | |
| 三隅川 | 40.86 | 230.20 | S5. 4. 1 S22. 9. 22 | 県告示第 158 号ノ 2 県告示第 397 号 | 那賀郡安城村 栃木川落合 | 海に至る | ミミガワ |
| | | | | | 那賀郡安城村 栃木川落合 | | |
| 三隅川 放水路 | 0.46 | 0.20 | H17. 2. 25 | 県告示第 237 号 | 三隅川からの分派点 | 海に至る | ミミガワ ホイスロ |
| | | | | | | | |
| 山田川 | 0.13 | 1.75 | S62. 5. 12 | 県告示第 591 号 | 三隅町大字古市場 924 番 2 地先 | 三隅川との合流点 | ヤマダガワ |
| | | | | | 三隅町大字古市場 918 番地先 | | |
| 山田川 放水路 | 0.25 | 2.50 | H17. 2. 25 | 県告示第 237 号 | 山田川からの分派点 | 海に至る | ヤマダガワ ホイスロ |
| | | | | | | | |
| 細田川 | 2.84 | | S40. 8. 17 S42. 3. 31 | 県告示第 566 号 県告示第 318 号 | 三隅町大字折居字竹ンチ 791 番地先 | 三隅川への合流点 | ホタガワ |
| | | | | | 三隅町大字折居字代の前 695 番の 1 地先 | | |
| 細田川 放水路 | 0.82 | 1.70 | H17. 2. 25 | 県告示第 237 号 | 細田川からの分派点 | 海に至る | ホタガワ ホイスロ |
| | | | | | | | |
| 石田川 | 1.58 | 4.65 | S59. 3. 30 | 県告示第 410 号 | 三隅町大字三隅 1, 484 番地先 | 三隅川への合流点 | イシダガワ 流域面積は本川の内数 |
| | | | | | 三隅町大字三隅 35 番地先 | | |
| 観音川 | 0.41 | 0.94 | S59. 3. 30 | 県告示第 410 号 | 三隅町大字三隅 1, 539 番 7 地先 | 三隅川への合流点 | カンノンガワ 流域面積は本川の内数 |
| | | | | | 三隅町大字三隅 1, 537 番 4 地先 | | |
| 田原川 | 1.95 | | S42. 3. 31 | 県告示第 317 号 | 三隅町大字向田字後カ溢 738 番の 1 地先 | 三隅川への合流点 | タバヲガワ |
| | | | | | 三隅町大字向田字鉦カ迫 736 番地先 | | |
| 鹿子谷川 | 2.20 | | S42. 3. 31 | 県告示第 317 号 | 三隅町大字河内字市木田 151 番地先 | 三隅川への合流点 | シコダニガワ |
| | | | | | 三隅町大字河内字小畑 1, 446 番地先 | | |
| 井川川 | 14.38 | | S21. 2. 22 S23. 9. 18 | 県告示第 90 号 県告示第 464 号の 4 | 井野村大字井野 1, 240 番地 | 三隅川への合流点 | イガワガワ |
| | | | | | 井野村大字井野 762 番地 | | |
| 矢原川 | 16.74 | | S5. 4. 1 S33. 3. 31 | 県告示第 158 号ノ 2 県告示第 258 号 | 美都町大字宇津川字ホウリノハの 1, 438 番地 | 三隅川への合流点 | ヤハラガワ |
| | | | | | 美都町大字宇津川字馬の瀬 8 の 929 番地 | | |
| 丸茂川 | 6.80 | | S42. 3. 31 | 県告示第 317 号 | 美都町大字丸茂字松田 1, 009 番の 3 地先の田原橋 | 矢原川への合流点 | マルモガワ |
| | | | | | | | |
| 板井川 | 4.21 | | S42. 3. 31 | 県告示第 317 号 | 戸城川の合流点 | 三隅川への合流点 | イタヱガワ |
| | | | | | | | |
| 本郷川 | 4.66 | | S23. 9. 18 | 県告示第 464 号の 4 | 那賀郡杵束村大字野坂字木部賀木本 540 番地 | 三隅川への合流点 | ホンゴウガワ |
| | | | | | 那賀郡杵束村大字野坂字平田 538 番地 | | |

注) 表中の市町村名は指定年月日時点のものである。

【Ⅱ. 三隅川流域の基礎的事項に関する資料】

1. 三隅川流域の自然環境に関する資料

(1) 気象

昭和 51 年～平成 19 年の年降水量をみると北部平野部（气象台：三隅観測所）で 1,110mm～2,320mm(32 カ年平均 1,720mm)であるが、南部山間部(气象台:弥栄観測所)で 1,540mm～2,950mm(32 カ年平均 2,200mm)と多くなっている。また、流域内の各地における月別降水量は冬・春季（10 月～4 月）に少なく梅雨期の 6、7 月から台風期の 9 月に多い傾向を示している。

平成 19 年島根県年間降水量分布図を図 1-1に示す。

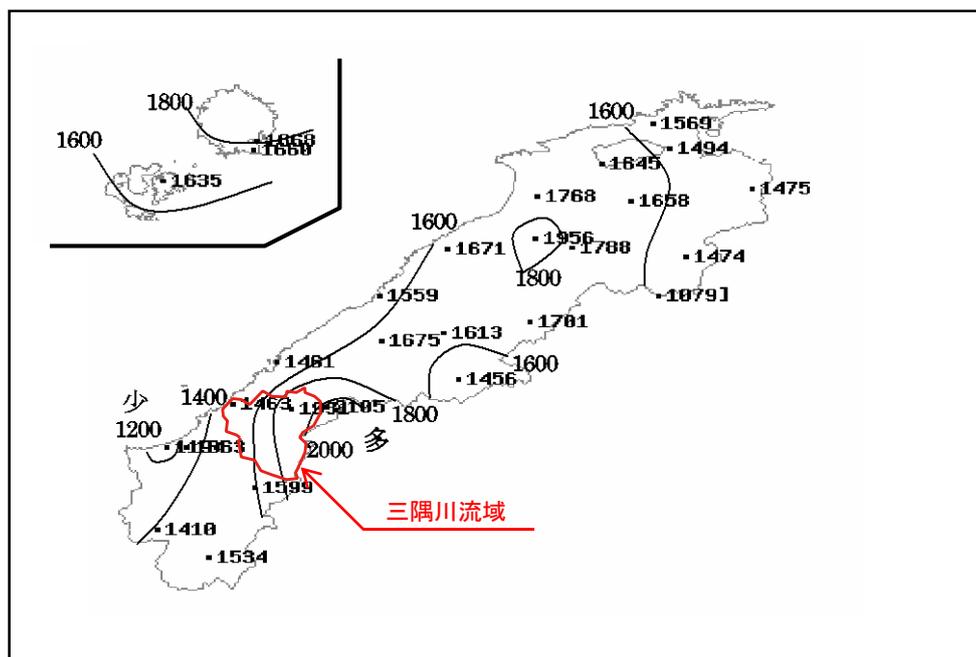


図 1-1 平成 19 年島根県年間降水量分布図

出典：「島根県の気象 平成 19 年 松江地方气象台」

表 1-1 主な雨量観測所降水量

| | 月別 | 22ヵ年 (昭和54年～平成12年) 平均降水量(mm) | | | 月別 | 22ヵ年 (昭和54年～平成12年) 平均降水量(mm) | |
|-------|---------------------------|------------------------------------|---------------------|---------------------------|-------|------------------------------------|---------------------|
| | | | | | | | |
| 三隅観測所 | 1月 | | 103 | 弥栄観測所 | 1月 | | 157 |
| | 2月 | | 90 | | 2月 | | 131 |
| | 3月 | | 125 | | 3月 | | 149 |
| | 4月 | | 117 | | 4月 | | 130 |
| | 5月 | | 149 | | 5月 | | 167 |
| | 6月 | | 232 | | 6月 | | 257 |
| | 7月 | | 279 | | 7月 | | 340 |
| | 8月 | | 137 | | 8月 | | 186 |
| | 9月 | | 201 | | 9月 | | 247 |
| | 10月 | | 110 | | 10月 | | 144 |
| | 11月 | | 110 | | 11月 | | 145 |
| | 12月 | | 88 | | 12月 | | 157 |
| 三隅観測所 | 年別 | 年間降水量(mm) | | 弥栄観測所 | 年別 | 年間降水量(mm) | |
| | 昭和51年 | | 1,644 ^{※)} | | 昭和51年 | | 欠測 |
| | 昭和52年 | | 963 ^{※)} | | 昭和52年 | | 欠測 |
| | 昭和53年 | | 1,121 ^{※)} | | 昭和53年 | | 200 ^{※)} |
| | 昭和54年 | | 1,582 | | 昭和54年 | | 2,218 |
| | 昭和55年 | | 2,207 | | 昭和55年 | | 2,714 |
| | 昭和56年 | | 1,704 ^{※)} | | 昭和56年 | | 2,412 |
| | 昭和57年 | | 1,564 | | 昭和57年 | | 1,978 |
| | 昭和58年 | | 1,136 ^{※)} | | 昭和58年 | | 2,857 |
| | 昭和59年 | | 1,243 ^{※)} | | 昭和59年 | | 1,552 ^{※)} |
| | 昭和60年 | | 2,320 | | 昭和60年 | | 2,825 ^{※)} |
| | 昭和61年 | | 1,499 ^{※)} | | 昭和61年 | | 1,895 |
| | 昭和62年 | | 112 ^{※)} | | 昭和62年 | | 2,282 |
| | 昭和63年 | | 1,862 | | 昭和63年 | | 2,153 |
| | 平成1年 | | 2,291 | | 平成1年 | | 2,669 |
| | 平成2年 | | 1,699 | | 平成2年 | | 2,151 |
| | 平成3年 | | 1,905 | | 平成3年 | | 2,266 |
| | 平成4年 | | 1,424 | | 平成4年 | | 1,711 |
| | 平成5年 | | 2,303 | | 平成5年 | | 2,947 |
| | 平成6年 | | 1,107 | | 平成6年 | | 1,542 |
| | 平成7年 | | 1,665 | | 平成7年 | | 2,162 |
| | 平成8年 | | 1,256 | | 平成8年 | | 1,764 |
| | 平成9年 | | 2,262 | | 平成9年 | | 2,488 |
| | 平成10年 | | 1,647 | | 平成10年 | | 2,099 |
| | 平成11年 | | 1,590 | | 平成11年 | | 1,985 |
| | 平成12年 | | 1,440 | | 平成12年 | | 1,881 |
| | 平成13年 | | 1,838 | | 平成13年 | | 2,259 |
| | 平成14年 | | 1,266 | | 平成14年 | | 1,728 |
| | 平成15年 | | 1,807 | | 平成15年 | | 2,476 |
| | 平成16年 | | 1,738 | | 平成16年 | | 2,444 |
| | 平成17年 | | 1,316 | | 平成17年 | | 2,053 |
| | 平成18年 | | 1,757 | | 平成18年 | | 2,308 |
| 平成19年 | | 1,463 | 平成19年 | | 1,931 | | |
| 平均 | 昭和51年～ 平成19年 (32ヵ年) | | 1,721 | 昭和51年～ 平成19年 (32ヵ年) | | 2,199 | |
| | 昭和51年～ 昭和60年 (10ヵ年) | | 1,918 | 昭和51年～ 昭和60年 (10ヵ年) | | 2,436 | |
| | 昭和61年～ 平成7年 (10ヵ年) | | 1,782 | 昭和61年～ 平成7年 (10ヵ年) | | 2,178 | |
| | 平成8年～ 平成19年 (12ヵ年) | | 1,615 | 平成8年～ 平成19年 (12ヵ年) | | 2,118 | |

・数字の右肩に※)のついているデータについては、欠測期間あり。
 ・欠測期間のある年は平均値の算出から除外している。

出典：気象庁HP

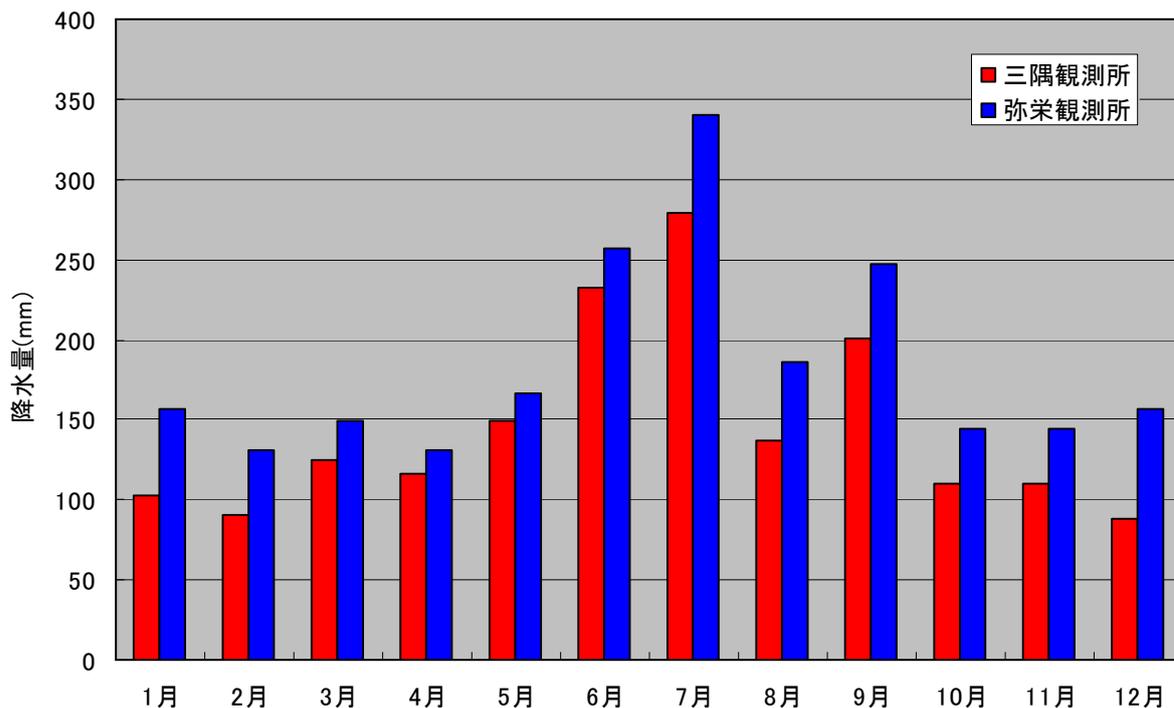
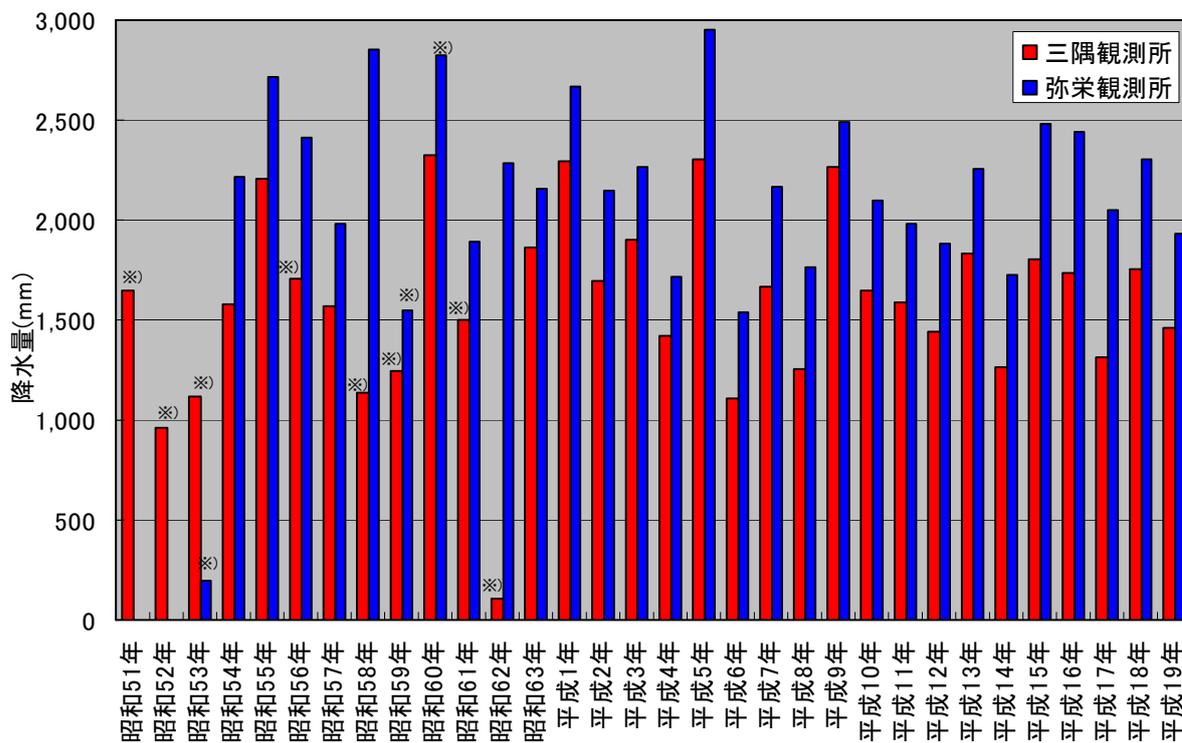


図 1-2 月別平均降水量 (昭和 54 年～平成 12 年)



・グラフの右肩に※のついているデータについては欠測期間あり。

図 1-3 年間降水量 (昭和 51 年～平成 19 年)

(2) 地 形

中国山地の配列は、東北－南西方向を示し、浜田市三隅町北東部の大麻山・漁山等からなる連山と、南西部の源田山・太平山等からなる連山が、いずれも中国山地に向ってその高さを増しながら峰を形成し、これらの連山に挟まれた地域は、丘陵地形を呈し海岸線に至っている。

三隅川流域の地形は、50%以上が傾斜角 30° 以上の急傾斜地であり、海岸沿いの比較的緩勾配地域においても 15° 以上の傾斜をもち、 10° 以下の傾斜をもつ地域は、わずかに河底平野や河口デルタ地帯にみられるにすぎない。

流域は、河口より半径 15 km～20 km の比較的単純な扇形地形を呈している。

三隅川流域の地形を図 1-4 に示す。

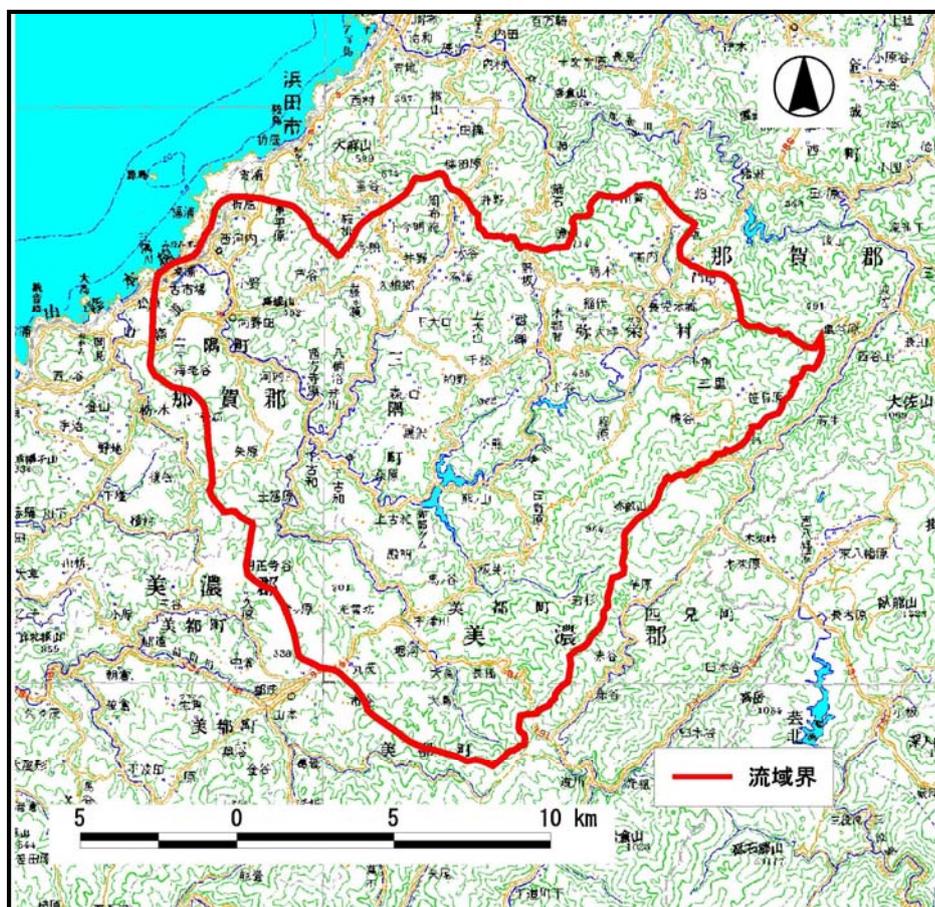


図 1-4 地勢図 (S=1:200:000)

(3) 地質

三隅川流域の基盤をなすものは三郡変成岩であり、下流域は泥質片岩、中上流域は砂質片岩により組成されている。この層は、上部石灰紀から二疊紀にかけて堆積した海成層であり、三隅川流域を中心として東は浜田市東部及び江津市から西は益田市美都町及び益田市の中部まで広く分布している。三郡変成岩は、岩質として泥分に富むものであり風化に弱く、土砂から粘土状となりやすい性質があり、斜面崩壊や地すべり又は土石流が発生しやすい地質環境にある。

三隅川流域の地質を図 1-5 に示す。

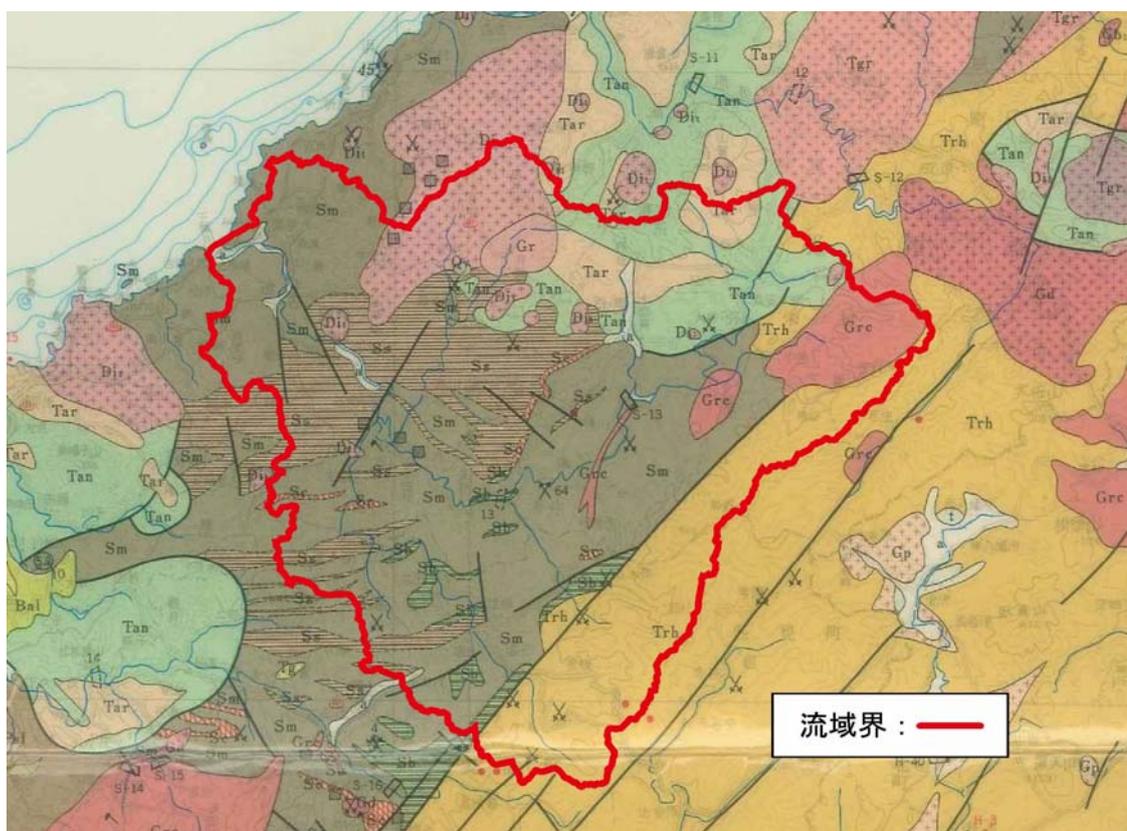


図 1-5 地質図

出典：「中国地方土木地質図 中国地方土木地質図編纂委員会」

(4) 林相

ヤブツバキクラス域代償植生のコナラ群落及びコバノミツバツツジ-アカマツ群集がその大部分を占めている。水田は河川沿いの扇状地性低地を中心に分布し、畑地は海岸沿いに小面積に散在している。中起伏山地となる美都町南東部にはブナクラス域代償植生のクレーミズナラ群落、ヤブツバキクラス域代償植生のアカマツ群落及びスギ・ヒノキ・サワラ植林が分布している。

自然植生は、ヤブツバキクラス域自然植生のオニヤブソテツ-ハマビワ群集及びクロマツ群落が海岸沿いに小面積で分布している。

三隅川流域の林相を図 1-6 に示す。

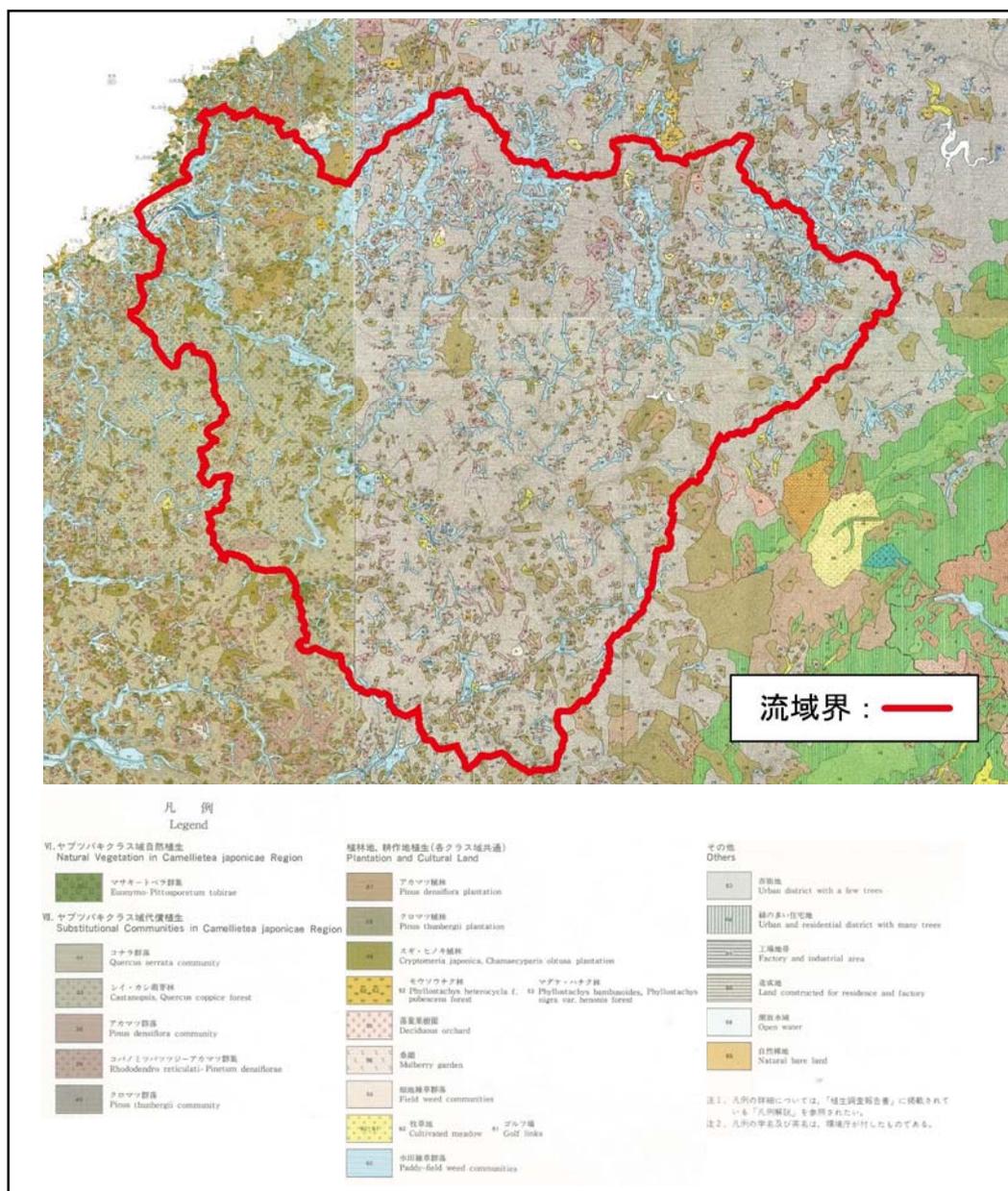


図 1-6 林相図 (現存植生図)

出典:「島根県現存植生図(1982) (1987) 環境庁」

(5) 動植物

「環境省レッドデータブック及びレッドリスト」記載される三隅川流域の動植物を表 1-2に示す。「しまねレッドデータブック（島根県の絶滅のおそれのある野生動植物）」に記載される三隅川流域の動植物を表 1-3に示す。現地調査で確認された魚類を表 1-5に示す。また表 1-4に矢原川ダム貯水予定区域周辺の動植物調査の結果を示す。

表 1-2 環境省レッドデータブック及びレッドリストに記載される動植物

| | |
|---|---|
| 哺乳類 | ニホンヤマネ(NT)、ツキノワグマ(Lp) |
| 鳥類 | ミサゴ(NT)、ハイタカ(NT)、オオタカ(NT)、クマタカ(EN)、ハチクマ(NT)、オシドリ(DD)、ヤイロチョウ(EN)、サンショウクイ(VU)、フッポウソウ(EN)、チュウサギ(NT)、ハヤブサ(VU)、サンバ(VU)、ヨタカ(VU) |
| 爬虫類 | 該当種なし |
| 両生類 | オオサンショウウオ(VU)、カジカガエル(NT) |
| 汽水・淡水魚類 | メダカ(VU)、スナヤツメ(VU)、カワヤツメ(VU)、イシドジョウ(EN)、アカサ(VU)、カジカ(小卵型)(EN)、トヨ(Lp)、コギ(VU)、カマキリ(VU) |
| 昆虫類 | タガメ(VU)、ウラナミジヤノメ(VU)、コオイムシ(NT)、ツマグロキチョウ(VU)、スジグロチャハネセセリ(NT)、ギンイチモンジセセリ(NT)、ネアカヨシヤンマ(NT)、ウラギンスジヒョウモン(NT) |
| 底生生物 | 該当種なし |
| クモ類 | 該当種なし |
| 甲殻類 | 該当種なし |
| 陸・淡水産貝類 | 該当種なし |
| 維管束植物 | タコノアシ(NT)、ミクリ(NT)、エビネ属の一種(NT)、カンアオイ属の一種(NT)、ナツエビネ(VU)、タキミシタ(EN)、マルバノサワトウガラシ(VU)、サルメンエビネ(EN) |
| <p>【凡例】</p> <p>絶滅危惧IA類 CR: 絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。(ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの)</p> <p>絶滅危惧IB類 EN: 絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。(IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)</p> <p>絶滅危惧II類 VU: 絶滅の危機が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられる</p> <p>準絶滅危惧 NT: 存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。</p> <p>情報不足 DD: 評価するだけの情報が不足している種</p> <p>絶滅のおそれのある地域個体群 Lp: 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。</p> | |

表 1-3 「しまねレッドデータブック」に記載される動植物

| | |
|---------------|--|
| 哺乳類 | ホンドモモンガ(VU)、ニホンヤマネ(VU)、イタチ属の一種(NT)、ツキノワグマ(CR+EN)、キクガシラコウモリ(NT) |
| 鳥類 | ミサコ(VU)、ハイタカ(NT)、オオタカ(CR+EN)、サンコウチョウ(NT)、サシバ(CR+EN)、クマタカ(CR+EN)、ハチクマ(CR+EN)、ヤイロチョウ(VU)、アカショウビン(VU)、サンショウクイ(VU)、ブッポウソウ(CR+EN)、ビタキ(DD)、アオバズク(NT)、フクロウ(NT)、ヤマセミ(NT)、オシドリ(NT)、ツミ(NT)、ハヤブサ(CR+EN)、ヨタカ(VU)、アカショウビン(VU) |
| 爬虫類 | ジムグリ(NT) |
| 両生類 | オオサンショウウオ(VU)、カジカガエル(NT)、タコガエル(NT)、モリアオガエル(NT) |
| 汽水・淡水魚類 | カワヤツメ(VU)、イトヨ(VU)、スナヤツメ(VU)、カマキリ(NT)、イシトシヨウ(VU)、オオヨシホリ(NT)、カジカ(小卵型)(VU)、アカザ(NT)、ゴギ(CR+EN) |
| 昆虫類 | ギンイチモンジセセリ(VU)、ルリホシヤンマ(NT)、タカメ(VU)、ウラナミジヤノメ(CR+EN)、ネアカヨシヤンマ(NT)、ハッチョウトンボ(NT)、コオイムシ(CR+EN)、オオカトンボ(NT)、マイコアカネ(CR+EN)、アオマダラタマムシ(DD)、ホソイトトンボ(NT)、アオサナエ(NT)、ヒメアカネ(NT)、クツワムシ(NT)、キボシマルウンカ(DD)、ムネアカアワフキ(DD)、ヒゲナガサシガメ(DD)、オオメダカナガカメムシ(DD)、ヤマトタマムシ(DD)、トラフソバネカミキリ(DD)、ウラギンスジヒョウモン(VU)、メスグロヒョウモン(VU)、クモガタヒョウモン(VU)、ナカスジシャチホコ(DD)、エゾクシヒゲシャチホコ(DD)、ウスイロキシタバ(NT)、アオサナエ(NT)、スジグロチャバネセセリ(DD)、ツマグロキチョウ(VU)、オオチャバネセセリ(DD) |
| 底生生物 | 該当種なし |
| クモ類 | 該当種なし |
| 甲殻類 | 該当種なし |
| 陸・淡水産貝類 | 該当種なし |
| 維管束植物 | ヒトモススキ(NT)、ヘラノキ(NT)、ノシラン(NT)、タコノアシ(VU)、ナチンダ(NT)、ミクリ(NT)、エビネ属の一種(VU)、ナツエビネ(VU)、タキシダ(CR+EN)、ヒメサザラン(NT)、コジキイチゴ(NT)、シヤクショウソウ(DD)、サンヨウアオイ(NT)、ウチワゴケ(VU)、ヒメナベヅリ(VU)、サルメンエビネ(CR+EN) |
| 【凡例】 | |
| 絶滅危惧I類 CR+EN: | 絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。 |
| 絶滅危惧II類 VU: | 絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。 |
| 準絶滅危惧 NT: | 存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。 |
| 情報不足 DD: | 評価するだけの情報が不足している種 |

表 1-4 矢原川ダム貯水予定区域周辺で確認された動植物

| | |
|---------|---|
| 哺乳類 | キタシロウモリ(島NT)、ツキノグマ(国LP島CR+EN)、イヌ属の一種(島NT) |
| 鳥類 | チュウサギ(国NT)、ホトトリ(国DD島NT)、シコ(国NT島VU)、ハチクマ(国NT島CR+EN)、オオカ(国NT島CR+EN)、ツミ(島NT)、ハイカ(国NT島NT)、サシバ(国VU島CR+EN)、クマカ(国EN島CR+EN)、ハブサ(国VU島CR+EN)、アオハズク(島NT)、フクロウ(島NT)、ヨカ(国VU島VU)、ヤマシ(島NT)、アカショウビン(島VU)、ブッポウウ(国EN島CR+EN)、キイロチョウ(国EN島VU)、サシショウキ(国VU島VU)、ビバキ(島DD)、サコウチョウ(島NT) |
| 爬虫類 | シムケリ(島NT) |
| 両生類 | クマガエル(島NT)、モリアガエル(島NT)、カジカガエル(島NT) |
| 汽水・淡水魚類 | イトシヨウ(国EN島VU)、カキリ(国VU島NT) |
| 昆虫類 | ホミイトドボ(島NT)、アサエ(島NT)、ヒメカネ(島NT)、クヅムシ(島NT)、キボシマルウソカ(島DD)、ムネアカアワキ(島DD)、コオイムシ(国NT島CR+EN)、タメ(国VU島VU)、ヒゲナガサシメ(島DD)、オメダカナガカメシ(島DD)、ヤマトタムシ(島DD)、アオマダラタムシ(島DD)、トラボトバ初ミキリ(島DD)、オチヤハネセリ(島DD)、スシグロチヤハネセリ(国NT島DD)、ツマグロキチョウ(国VU島VU)、ウラギンズシヒョウモン(国NT島VU)、メダカヒョウモン(島VU)、クモカヒョウモン(島VU)、ナカシシヤチホコ(島DD)、エゾクシヒガシヤチホコ(島DD)、ウスイロキタハ(島NT) |
| 底生生物 | 該当種なし |
| クモ類 | 該当種なし |
| 甲殻類 | 該当種なし |
| 陸・淡水産貝類 | 該当種なし |
| 植物 | ウチワケ(島VU)、タシタ(国EN島CR+EN)、ヒメシラン(島NT)、サユウアイ(島NT)、ロジキイチコ(島NT)、シヤクシヨウウ(島DD)、マルハナサトウカラン(国VU)、ヒメハナリ(島VU)、ナツエビネ(国VU島VU)、サルメエビネ(国EN島CR+EN) |

【凡例1】 国：環境省レッドリスト(鳥類、爬虫類、両生類は平成18年12月公表版、哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、植物は平成19年8月公表版)

島：しまねレッドデータブック(平成16年3月改訂版)

【凡例2】 CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、CR+EN：絶滅危惧I類、VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足

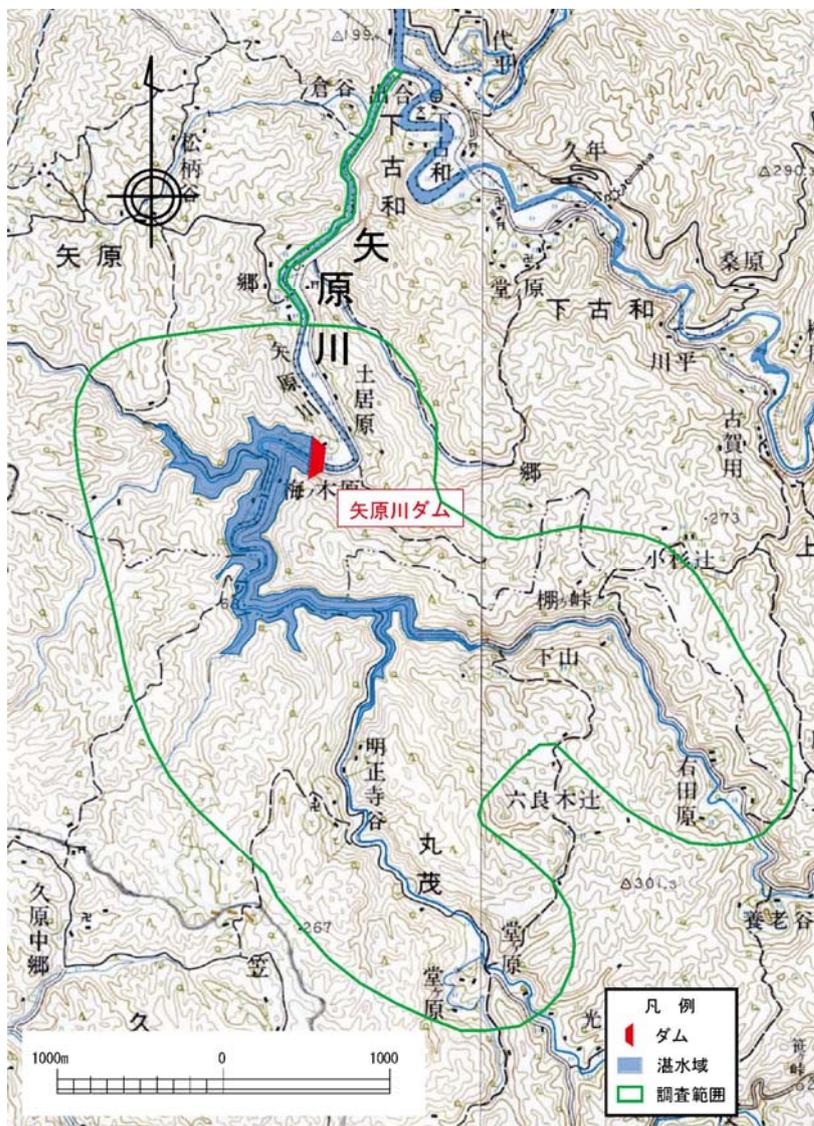


図 1-7 調査位置図

2. 三隅川流域の社会環境に関する資料

(1) 人口の推移

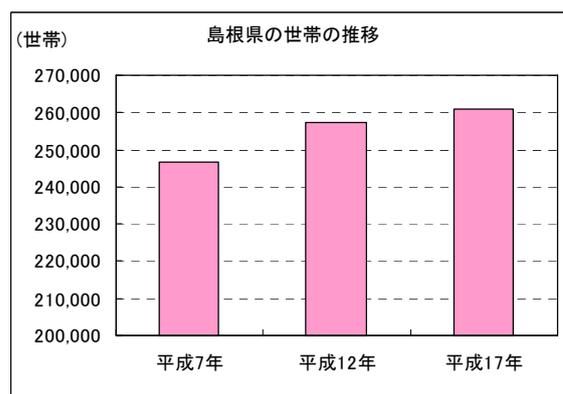
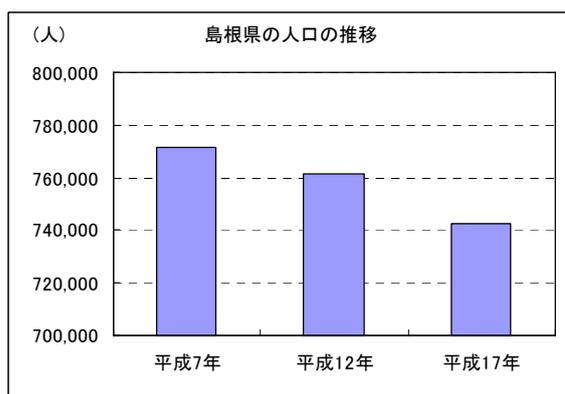
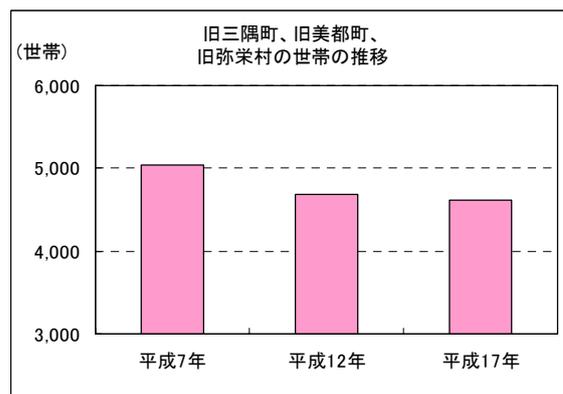
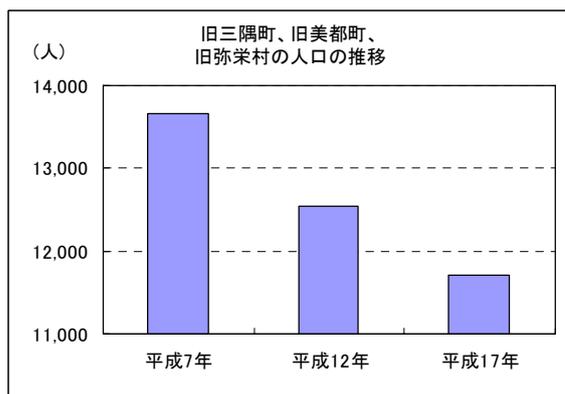
平成7年、同12年、同17年の国勢調査によると三隅川流域がある旧三隅町、旧美都町、旧弥栄村の人口及び世帯数の推移は表2-1のとおりとなっている。

3町村の合計の人口は減少傾向にあり、世帯数はほぼ横ばいであることが分かる。

表 2-1 圏域内町村の人口・世帯数

| 年次 項目 町村名 | 平成7年 | | 平成12年 | | 平成17年 | | 人口増加率 | |
|-----------------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|--------|---------|
| | 人口 (人) | 世帯数 (世帯) | 人口 (人) | 世帯数 (世帯) | 人口 (人) | 世帯数 (世帯) | H7～H12 | H12～H17 |
| 旧三隅町(現浜田市) | 8,881 | 3,324 | 8,073 | 3,028 | 7,570 | 3,043 | -10.0% | -16.6% |
| 旧弥栄村(現浜田市) | 1,845 | 695 | 1,789 | 708 | 1,612 | 634 | -3.1% | -25.0% |
| 旧美都町(現益田市) | 2,941 | 1,023 | 2,691 | 952 | 2,527 | 937 | -9.3% | -17.2% |
| 合計 | 13,667 | 5,042 | 12,553 | 4,688 | 11,709 | 4,614 | -8.9% | -18.0% |
| 島根県 | 771,441 | 246,476 | 761,503 | 257,530 | 742,223 | 260,864 | -1.3% | -7.5% |

出典:「国勢調査」(総務省統計局)



(2) 産業構造の変遷

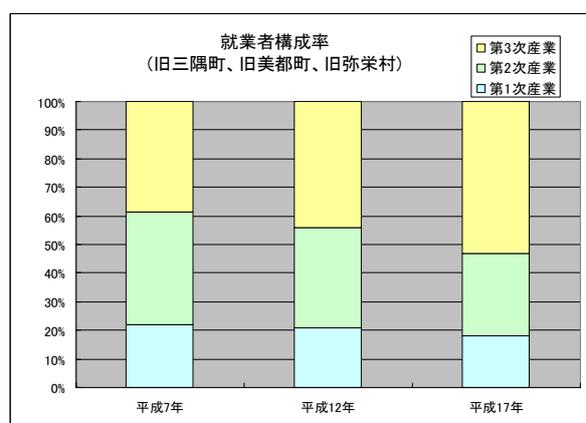
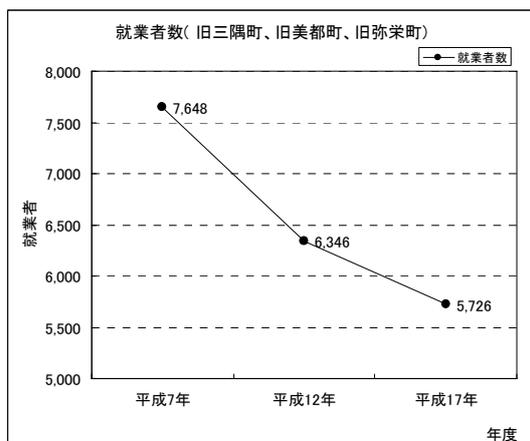
平成7年、同12年、同17年の国勢調査によると旧三隅町、旧美都町、旧弥栄村の産業別就業者数の推移は表2-2のとおりとなっている。

産業別就業者数の全般的な傾向をみると就業者数は減少傾向にある。その構成率は、第1次産業は減少、第2次産業はほぼ横ばい、第3次産業は増加していることがわかる。

表 2-2 産業別就業者数(旧三隅町、旧美都町、旧弥栄村)

| 町村名 | 項目 | 年次 単位 | 平成7年 | | | | 平成12年 | | | | 平成17年 | | | |
|------------|-------|----------|---------|--------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|--------|--------|---------|
| | | | 総数 | 第1次産業 | 第2次産業 | 第3次産業 | 総数 | 第1次産業 | 第2次産業 | 第3次産業 | 総数 | 第1次産業 | 第2次産業 | 第3次産業 |
| 旧三隅町(現浜田市) | 従業者数 | 人 | 4,854 | 645 | 2,117 | 2,092 | 3,945 | 441 | 1,371 | 2,133 | 3,595 | 408 | 1,054 | 2,133 |
| | (構成率) | (%) | (100) | (13) | (44) | (43) | (100) | (11) | (35) | (54) | (100) | (11) | (29) | (59) |
| 旧弥栄村(現浜田市) | 従業者数 | 人 | 1,154 | 424 | 312 | 418 | 1,040 | 349 | 288 | 403 | 870 | 308 | 145 | 417 |
| | (構成率) | (%) | (100) | (37) | (27) | (36) | (100) | (34) | (28) | (39) | (100) | (35) | (17) | (48) |
| 旧美都町(現益田市) | 従業者数 | 人 | 1,640 | 416 | 618 | 606 | 1,361 | 296 | 409 | 656 | 1,261 | 248 | 357 | 656 |
| | (構成率) | (%) | (100) | (25) | (38) | (37) | (100) | (22) | (30) | (48) | (100) | (20) | (28) | (52) |
| 合計 | 従業者数 | 人 | 7,648 | 1,485 | 3,047 | 3,116 | 6,346 | 1,086 | 2,068 | 3,192 | 5,726 | 964 | 1,556 | 3,206 |
| | (構成率) | (%) | (100) | (19) | (40) | (41) | (100) | (17) | (33) | (50) | (100) | (17) | (27) | (56) |
| 島根県 | 従業者数 | 人 | 406,032 | 55,667 | 123,299 | 227,066 | 388,289 | 40,896 | 112,631 | 234,762 | 366,718 | 37,109 | 93,085 | 236,524 |
| | (構成率) | (%) | (100) | (14) | (30) | (56) | (100) | (11) | (29) | (60) | (100) | (10) | (25) | (64) |

出典：「国勢調査」(総務省統計局)



(3) 地名の由来

三隅川流域に位置する三隅町(現浜田市三隅町)、美都町(現益田市美都町)、弥栄村(現浜田市弥栄町)の町村名の由来は以下のとおりである。

三隅町

「三隅」という名称は、この地が古く律令制時代^{みすみごう}三隅郷と呼ばれて以来、三隅と称されたことによる。

「八重葎」に三隅の地を「三隅本郷」と記し、「三隅本郷と申すは、往昔大穴持尊此郷内にて始めて三角成田を開き初め給う故、古名成田郷と申す・順和名抄に三角郷と有り」と記されており、語源は「三角」と考えられるが、「三隅」に変わった経緯は定かではない。

美都町

「美都」という名称は、美濃郡^{みののぐん}の郡名と都茂^{つも}の村名との合成によるもので、昭和29年4月1日東仙道村^{ひがしせんどうむら}、都茂村^{つもむら}、二川村^{ふたかわむら}が合併した際、美鹿^{みか}地方事務所長により命名されたものである。

弥栄村

「弥栄」という名称は、旧安城村^{やすぎむら}と旧杵束村^{きつかむら}が合併するに際し、一般村民から公募した結果選ばれたもので、村の東南部にそびえる弥敵山^{やうねやま}のように、新村が雄々しく、将来の弥栄を願う意味から名付けられたものである。

(4) 文化財・遺跡

三隅川流域は、日本海に面しており、河口部に位置する三隅港により、流域の物資積出港とともに、石見国の有力国衆・三隅氏の外港として日本海水運、朝鮮貿易の拠点を担った港町であった。

近年の埋蔵文化財の調査により、縄文晩期（約 3000 年前）の遺跡が発見されている。本格的な開発がはじまったのは奈良朝・平安朝になってからで、836 年（承和 3 年）に「丸山銅山」が発見されたことによって広く世に知られるようになった。また、南北朝時代にこの地域を勢力下におき、益田市七尾城を拠点とした益田氏と激しい攻防を繰り広げ難攻不落を誇った「三隅城跡」をはじめ、三隅氏にゆかりのある神社、寺院等がある。

表 2-3 に、文化財の指定状況を示す。なお矢原川ダム建設の事業実施予定区域には、史跡及び名勝等の文化財は指定されていない。

表 2-3 流域内にある指定文化財

| 市町村 | 種別 | | 名称 |
|------------|--------------|--------------|-------------|
| 浜田市 三隅町 | 県指定 | 彫刻 | 木造雨宝童子立像 |
| | | | 木造薬師如来坐像 |
| | | 絵画 | 紙本墨画淡彩大麻山縁起 |
| | 浜田市町指定 | 史跡 | 正法寺奥の院 |
| | | | 笠取りの墓 |
| | | | 大麻山神社道中石 |
| | | | 成田郷三角田記念碑 |
| | | | 寺尾用水隧道 |
| | | | 廓英法師墓 |
| | | | 絵画 |
| | | 工芸品 | 古和三尊仏 |
| | | 書跡 | 紺紙金泥金剛経 |
| | | 古文書 | 送り場古文書 |
| | | | 二宮神社古文書 |
| 彫刻 | 木造阿弥陀如来坐像 | | |
| 益田市 美都町 | 史跡 | 四ツ山城跡 | |
| | | 丸茂城跡 | |
| | | 三谷 1 号・2 号古墳 | |
| | | 夏山墓地 | |
| | | 板井川城跡 | |
| | | 養老瀧 | |
| | | 大鳥たたら跡 | |
| | | 史跡及び名勝（登代城） | 双川狭・板井川城跡 |
| | 有形文化財（古文書） | 梅津文書 | |
| | 有形文化財 | 紙本墨書大般若経 | |
| | 有形民俗文化財（1 頭） | 板井川新宮神社獅子頭 | |
| 史跡（相続庵跡） | 品川大膳有縁墓所 | | |

(5) 景観と観光

1) 景観

景観の状況の調査範囲における「第3回自然環境保全基礎調査」（環境庁 平成元年）に記載されている自然景観資源の分布は、表 2-4に示すとおりである。

表 2-4 自然景観資源の状況

| No. | 自然景観資源名 | 名称 | 自然景観資源の概要 |
|-----|---------|----------|--|
| 1 | 非火山性孤峰 | 大麻山 | 山脈・山地に含まれない孤立峰。比高 100m以上でランドマーク的なもの。 |
| 2 | 穿入蛇行河川 | 三隅川 | 蛇行状に屈曲する谷のなかを流れる河川。川幅 15m以上、3 サイクルで屈曲率が 2 以上のもの。 |
| 3 | 溺れ谷 | 折居・西河内海岸 | 陸上で形成された谷が海面の相対的上昇により海面下に沈んで生じた細長い湾。 |

資料) 第3回自然環境保全基礎調査（環境庁 平成元年）をもとに作成

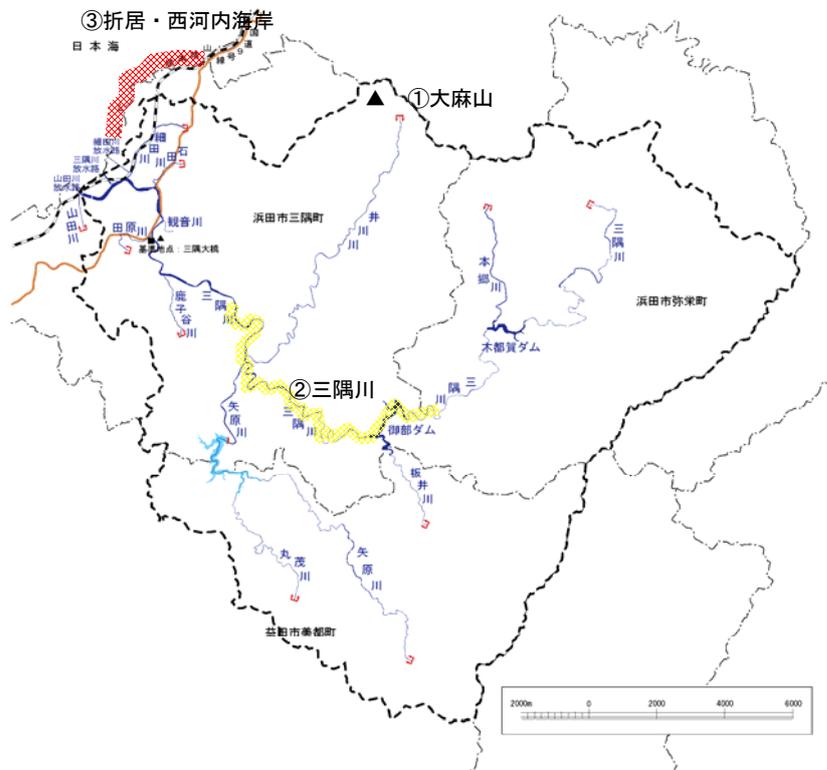


図 2-1 自然景観資源の位置図

2) 観光

流域内の観光地としては、三隅市街地周辺に「アクアみすみ」、「三隅公園」があり、三隅川上流域には「ふるさと体験村」がある。「三隅公園」では5月に「つつじ祭り」が開催されるため以下のグラフに示すとおり特に観光客が多くなっている。

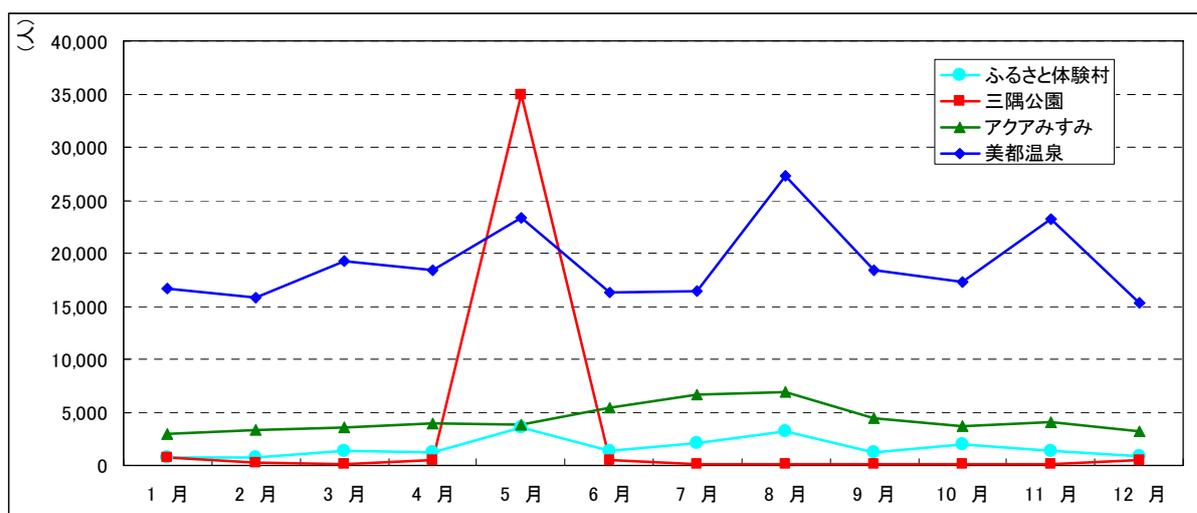
矢原川上流域には地域を代表する「美都温泉」があり、河川事業と連携した周辺環境整備が行われている。さらに、双川峡と御部ダムを結ぶ中国自然歩道とも結ばれており、益田や広島方面からの観光客も多い。

流域内の主な観光施設について月別観光客の推移を表 2-5に示す。

表 2-5 月別観光客数

| 観光地名 | 町村名 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|---------|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| ふるさと体験村 | 旧弥栄村 | 739 | 776 | 1,388 | 1,238 | 3,624 | 1,305 | 2,105 | 3,202 | 1,237 | 1,966 | 1,400 | 807 |
| 三隅公園 | 旧三隅町 | 700 | 300 | 150 | 500 | 35,000 | 500 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 500 |
| アクアみすみ | 〃 | 2,988 | 3,283 | 3,573 | 3,982 | 3,884 | 5,388 | 6,711 | 6,889 | 4,423 | 3,751 | 4,067 | 3,199 |
| 美都温泉 | 旧美都町 | 16,723 | 15,774 | 19,238 | 18,415 | 23,347 | 16,333 | 16,374 | 27,265 | 18,412 | 17,332 | 23,268 | 15,319 |

※) 県観光振興課「島根県観光動態調査結果表 平成15年」



(6) 伝統芸能・風習

三隅川流域には、地域独特の文化が伝承され、地域の暮らしとともに祭りや伝統芸能を育んでいる。

以下に特記すべき伝統芸能、風習等を述べる。

● 石見神楽^{いのみかぐら}

石見神楽^{いのみかぐら}の社中^{しゃちゆう}は石見地方一円で100近くを数えるが、三隅町内にも5つの石見神楽社中がある。このうち井野地区の井野神楽^{いのかぐら}は、県の無形民俗文化財に指定されている。安永年間に井野八幡宮で始められたといい、その後代々受け継がれて、現在に至っている。儀式神楽・式外神楽を合せて、神楽の総数は349曲にも及び、とりわけ太鼓口^{どうのくち}・天蓋^{てんがい}・貴船^{きふね}などの曲は珍しい。石見神楽は、出雲神楽と較べて極めて演劇的要素が強く、神事としてよりはむしろ庶民の娯楽として発達した点に特徴がある。

毎年6月の第1日曜に町内外社中で”三隅の神楽舞い”が演じられている。



出典：浜田市三隅支所より提供

● 田囃子^{たばやし}

豊作を祈っての田の神「さんばいさん」をまつる際、奉納するのが「田囃子」である。現在三隅で行われているのは、井野地区と黒沢地区のみである。黒沢の囃子田^{たばやし}は、昭和40年に県の無形民俗文化財に指定された。安永9年頃から始まったといわれる井野の田囃子^{たばやし}は、田囃子^{たばやし}の中でも少数派である小笠原流の伝統を受け継いでいる。

田囃子行事はまず、さんばい棚にさんばいさんを迎え、牛供養の儀式をする。次に代かきといって、田んぼの中で着飾った二、三十頭の牛が法則に従って代をかき化粧をした早乙女^{たばやし}が田囃子の囃子^{はやし}にのって一株一株苗を植えていく。代かきの途中で中休みがあり、この時もう一度牛供養をしてから、ほおの木の葉に包まれたさんばい飯と煮しめをいただく。

われゆかた（しりからげ）に赤いたすきがけ、そろいの花笠をかぶった三、四十人の男が、同頭のササラの拍子にあわせて腰につけた大太鼓や小太鼓を打ちながら田唄を唄いまわり、代かきの間中、田囃子^{たばやし}が行われる。本来、このはやす行為のみを「田囃子」^{たばやし}と呼ぶのがあるが、牛供養、代かきも含めた総称として「田囃子」^{たばやし}（黒沢では「囃子田」^{はやし}）と呼んでいる。



出典：浜田市三隅支所より提供

●^{すいじんさい}水神祭

子供たちが川で危険な目に会わないようにと始まった^{すいじんさい}水神祭はおそらく江戸時代の中頃にはじまったのではないかとされている。現在の^{すいじんさい}水神祭はツツジ祭と一緒に三隅地区のみで行われているが、かつては字ごとに行われる、子供たち主催の祭であった。

儀式は始め祭壇の上に水神様とお供え物を置き、今年も水難事故が起こらないようにと神主さんにお払いをしてもらう。儀式の後は、子供たちだけで運動会を開き、陣取り、かけっこ、宝捜しなどをして過ごす。

昭和30年代を境に町の様子は大きく変化し、^{すいじんさい}水神祭も子供の数が減ったため、大人が運営するようになった。しかし、字ごとに作られたホコラだけはそのまま残り、^{すいじんさい}水神祭の日には菓子や花が供えられている。



出典：浜田市三隅支所より提供

●石州和紙

手すき紙は元興元年（105年）に中国の蔡倫によって発明され、日本へは推古18年（610年）に高麗僧「曇徴」により伝来された。石州和紙（石州半紙）は島根県の西部（石見地方）の地域で漉かれている。

寛政10年（1798）の「紙漉重宝記」によると「慶雲・和銅（704年～715年：奈良時代）のころ柿本人麻呂が石見の国の守護で民に紙漉きを教えた」と記されており、約1300年もの間、石見（石州）地方では、手すき和紙が漉き続けられ守られてきた。

石州和紙（石州半紙）は原料に楮・三椏・雁皮の植物の靱皮繊維を使用し、補助材料としてネリに「トロロアオイ」の根の粘液を使い、漉膏を漉桁にはさんで「流し漉き」により、つくられる。

生産の最も多い石州半紙（楮紙）は地元で栽培された良質の楮を使用して漉かれ、微細で強靱で光沢のある和紙である。かつては大阪商人が石州半紙を帳簿に用い、火災のときいち早く井戸に投げ込んで保存を図ったものである。

このように先人たちから引き継がれた技術・技法を守ることにより石州半紙技術者会（初代会長：久保田保一）が製造している「石州半紙」が昭和44年（1969年）国の重要無形文化財に指定を受けた。

また、重要無形文化財の「石州半紙」を代表とする石州和紙の技術・技法は、三隅町を中心に住む職人の手で一貫して保持されており、今後の総合的振興を図るために石州和紙協同組合（初代代表理事：西田義夫）を設立し、平成元年（1989年）に通商産業大臣指定の「伝統的工芸品」にこの「石州和紙」が指定を受けた。

全国的に若手の後継者や従事者の不足が叫ばれており、石州和紙でも原料の確保難と共に深刻化しつつあるが、若手後継者育成と伝統ある技術・技法の保存に積極的に取り組んでおり、こうした中、平成20年7月には石州半紙が国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産リストに日本の候補として選ばれ、後世に伝える世界的な文化財として期待される。



出典：浜田市三隅支所より提供

(7) 土地利用

三隅川流域内の土地利用状況は、大部分が森林であり、河川沿いを中心に田畑が点在している。

三隅川の土地利用状況を図 2-2に示す。

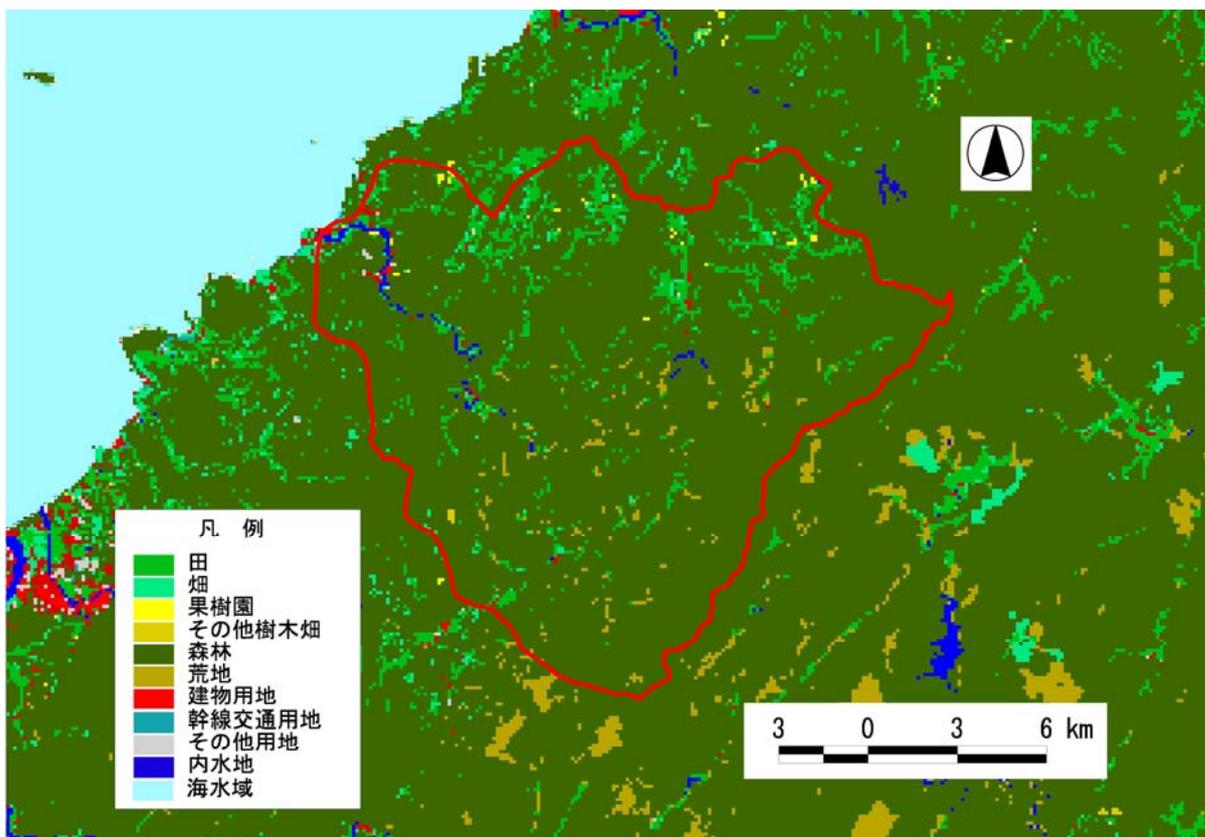
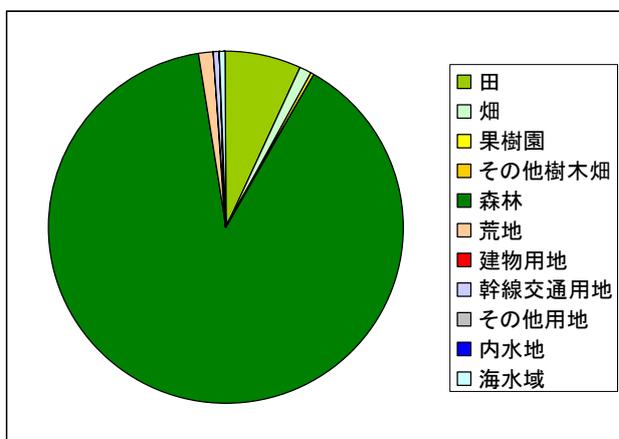


図 2-2 土地利用 (1/10 細分区画土地利用データ)



3. 三隅川流域の治水・利水・河川環境に関する資料

(1) 治水事業の概要

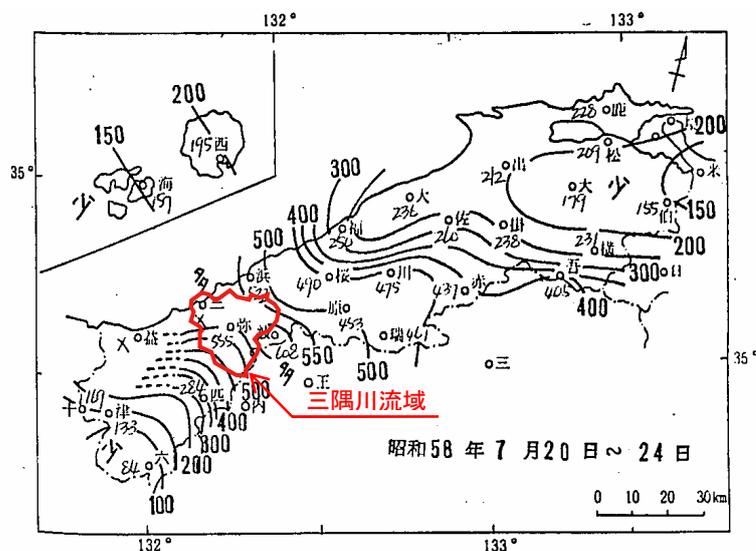
三隅川水系は古くから河積が狭小なため、一度洪水になると各所で溢水氾濫し、家屋、道路及び水田の浸水等の被害を受けてきたために、以前から様々な治水対策に取り組んできた。

三隅川水系の治水対策としては、昭和 18～33 年の連続災害を契機として昭和 34 年から浜田市弥栄町大字木都賀に砂防ダムを建設し、昭和 36 年にこれを完成させるとともに、その後も昭和 37、40 年と被災し、昭和 44 年度には河口部の河川局部改良工事を実施した。さらに、昭和 47 年 7 月には梅雨末期の集中豪雨により多大な災害に見舞われたため、災害による暫定的な河川改修事業を実施した後に、昭和 53 年より河川改修事業により三隅大橋から河口までの間の掘削、築堤、護岸等を実施し、昭和 56 年には御部ダムの建設に着手した。しかし、昭和 58 年 7 月の梅雨前線豪雨では総雨量が 500mm を超え、計画規模を上回る出水となり、三隅町全体で死者 33 名、流域で被災家屋 2,562 棟の甚大な被害を被った。

このため昭和 62 年 11 月に三隅川水系工事实施基本計画の改定がなされ、さらにその後の降雨資料を加えて治水安全度を検討した結果、基準点（三隅大橋）での基本高水のピーク流量 2,440 m^3/s 、計画高水流量 1,600 m^3/s とし、840 m^3/s を御部ダム（平成 2 年完成）と矢原川ダムで調節することとした。三隅川下流の三隅町市街地においては河道沿川に宅地が密集しており、河道拡幅による改修では用地の確保が極めて困難であり、また生活基盤の崩壊の恐れがあることから、ダムによる洪水調節が最も意義があり、且つ経済的である。

現状では、昭和 58 年 7 月豪雨に相当する概ね 100 年に 1 回程度の確率で発生する大雨による洪水に対して河道の流下能力が不足しているため、治水対策の早期完了が課題となっている。

昭和 58 年 7 月豪雨における総降水量分布図を図 3-1 に示す。



出典：昭和 58 年 7 月豪雨災害の記録 島根県

図 3-1 総降水量分布図（昭和 58 年 7 月豪雨）

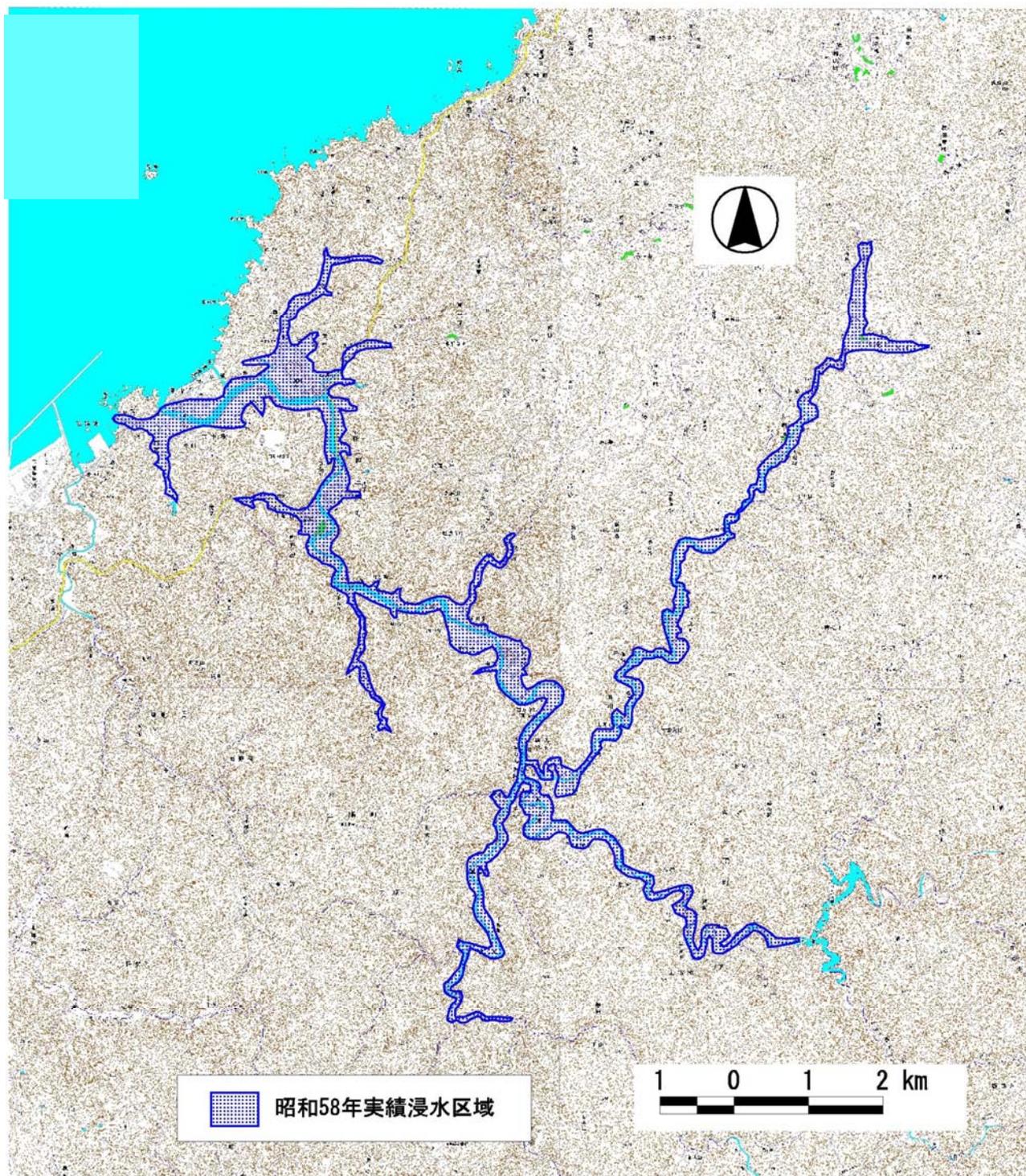


图 3-2 氾濫実績図（昭和 58 年 7 月洪水）

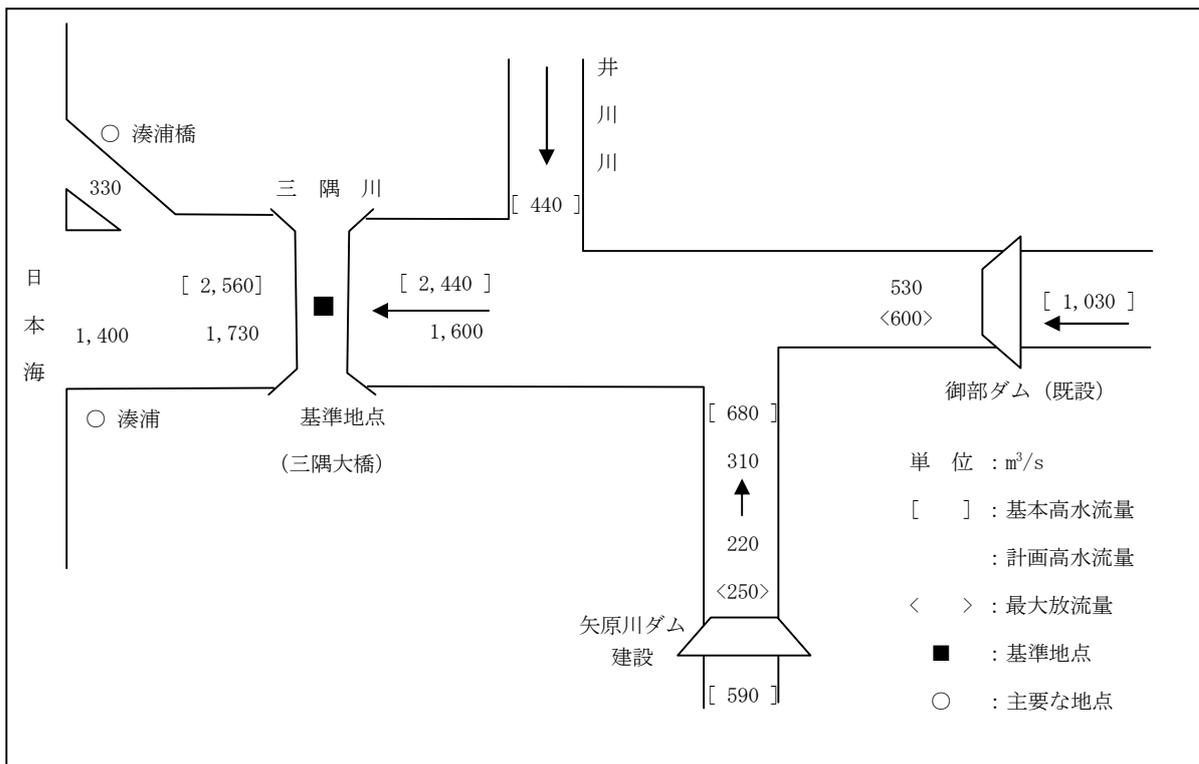


図 3-3 三隅川水系河川整備計画高水流量配分図

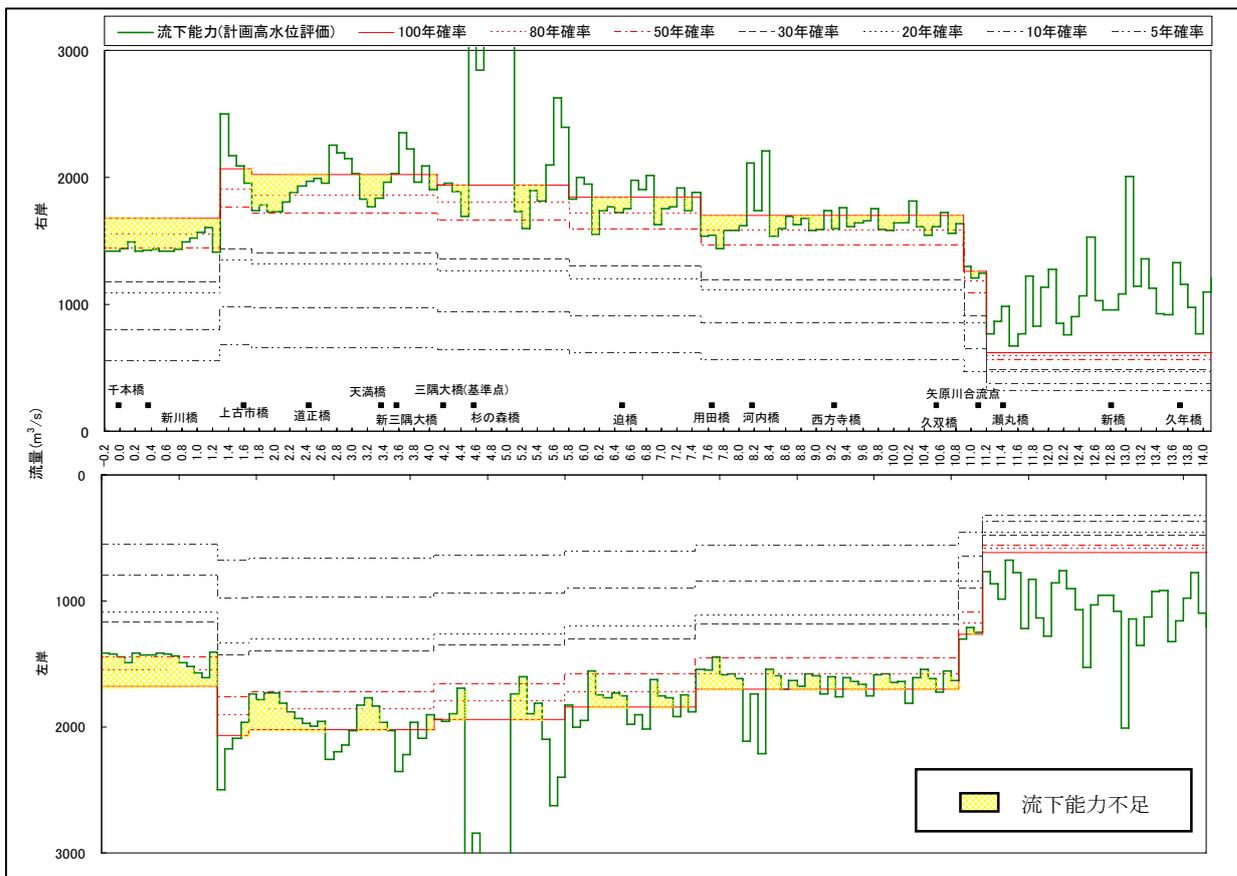


図 3-4 三隅川流下能力図

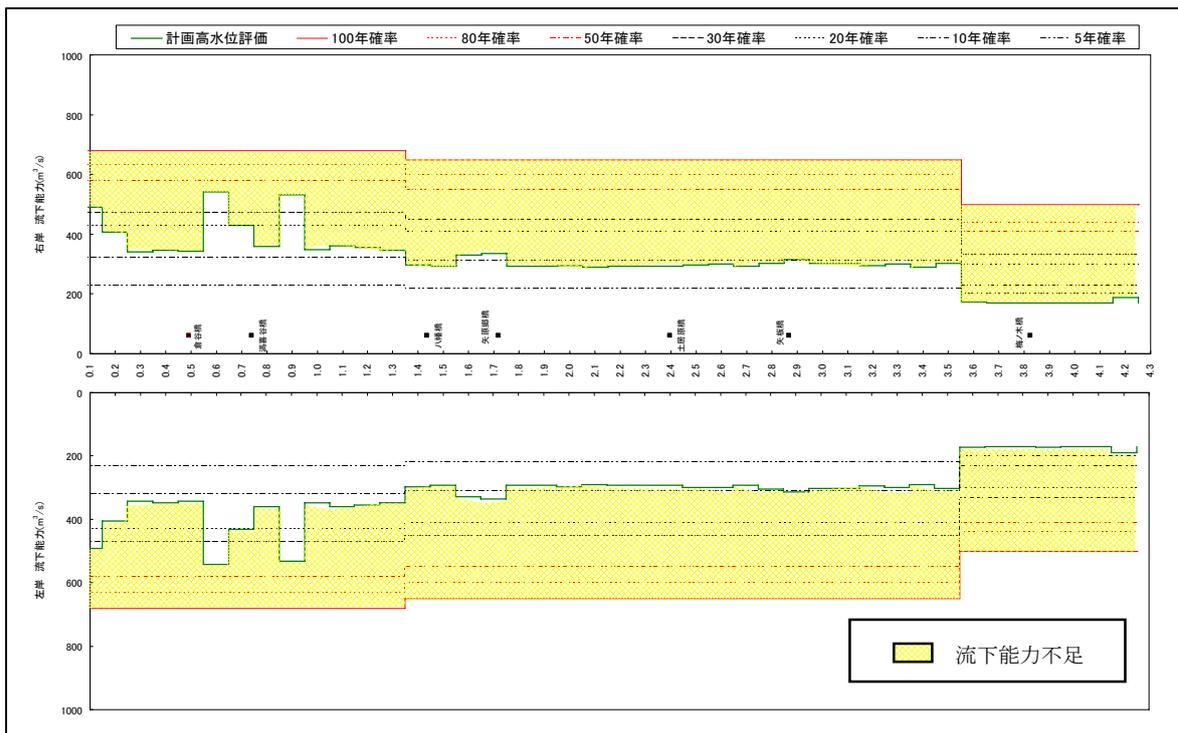
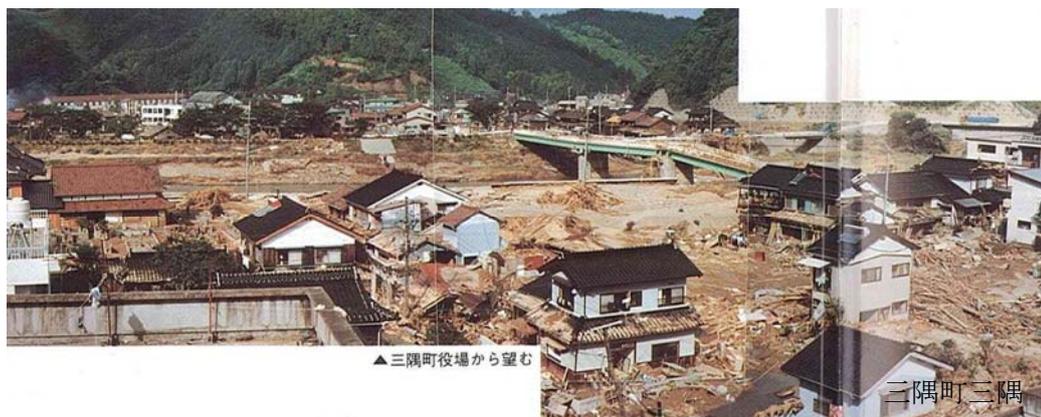


図 3-5 矢原川流下能力図

(2) 被災写真

昭和 58 年 7 月洪水の被災写真を以下に示す。





(3) 治水事業実施状況

三隅川水系での主な河川改修事業を表 3-1に示す。

表 3-1 過去の河川整備事業

| 事業名 | 期間 (年度) | 番号 | 河川名 | 改修区間 | | 延長 (m) |
|---------------------|------------|----|----------|------------------|------------------|-----------|
| | | | | 下流端 | 上流端 | |
| 河川局部改良事業 | S44~S52 | 1 | 三隅川 | 三隅町大字古市場 | 三隅町大字向野田 | 330 |
| 河川災害復旧助成事業 | S47~S50 | 2 | 三隅川 | 三隅町大字向野田 | 三隅町大字西方寺原 | 4,000 |
| 中小河川改修事業 | S53~S58 | 3 | 三隅川 | 三隅町大字古市場 | 三隅町大字向野田 | 4,500 |
| 河川災害復旧助成事業 | S58~S63 | 4 | 三隅川 | 三隅町大字湊浦 | 三隅町大字下古和 | 14,042 |
| 河川局部改良事業 | S46~H10 | 5 | 三隅川 | 弥栄村大字大坪 | 弥栄村大字大坪 | 2,952 |
| 河川災害関連事業 | S55~S57 | 6 | 三隅川 | 弥栄村大字大坪 | 弥栄村大字栃木 | 1,133 |
| 河川災害復旧助成事業 | S60~S62 | 7 | 三隅川(放水路) | 三隅町大字八曾 | 三隅町大字八曾 | 400 |
| 河川災害復旧助成事業 | S58~S62 | 8 | 田原川 | 三隅町大字田原 | 三隅町大字田原 | 1,890 |
| 河川災害復旧助成事業 | S58~S62 | 9 | 鹿子谷川 | 三隅町大字鹿子谷 | 三隅町大字鹿子谷 | 2,092 |
| 河川災害復旧助成事業 | S58~S62 | 10 | 井川川 | 三隅町大字代平 | 三隅町大字周布地 | 12,364 |
| 河川災害関連事業 | S58~S60 | 11 | 矢原川 | 美都町大字宇津川 | 美都町大字宇津川 | 1,534 |
| 河川災害復旧助成事業 | S58~S61 | 12 | 矢原川 | 三隅町大字出合 | 三隅町大字梅木原 | 4,240 |
| 小規模河川改修事業 | S45~S63 | 13 | 細田川 | 三隅町大字岡崎 | 三隅町大字岡崎 | 960 |
| 河川災害復旧助成事業 | S60~S62 | 14 | 細田川(放水路) | 三隅町大字岡崎 | 三隅町大字岡崎 | 828 |
| 河川災害復旧助成事業 | S62~S63 | 15 | 山田川 | 三隅町大字古市場 | 三隅町大字古市場 | 126 |
| 河川災害復旧助成事業 | S62~S63 | 16 | 山田川(放水路) | 三隅町大字古市場 | 三隅町大字古市場 | 254 |
| 河川局部改良事業 | S55~S61 | 17 | 本郷川 | 弥栄村大字下谷 | 弥栄村大字下野坂 | 1,690 |
| 河川災害関連事業 | S58~S60 | 18 | 本郷川 | 弥栄村大字下野坂 | 弥栄村大字上野坂 | 2,106 |
| 河川災害復旧助成事業 | S60~S62 | 19 | 石田川 | 三隅町大字石田 | 三隅町大字石田 | 689 |
| 河川災害復旧助成事業 | S61~S62 | 20 | 観音川 | 三隅町大字三隅 | 三隅町大字三隅 | 486 |
| 河川災害関連事業 | S58~S60 | 21 | 丸茂川 | 美都町大字丸茂 | 美都町大字丸茂 | 1,390 |
| 河川災害関連事業 | S63~H1 | 22 | 板井川 | 美都町大字板井川 (左岸) | 美都町大字板井川 (右岸) | 529 |
| 三隅川総合開発事業 (御部ダム) | S54~H2 | 23 | 三隅川 | 三隅町大字上古和 | 三隅町大字黒沢 | — |

表中の地名は事業期間時点とする。

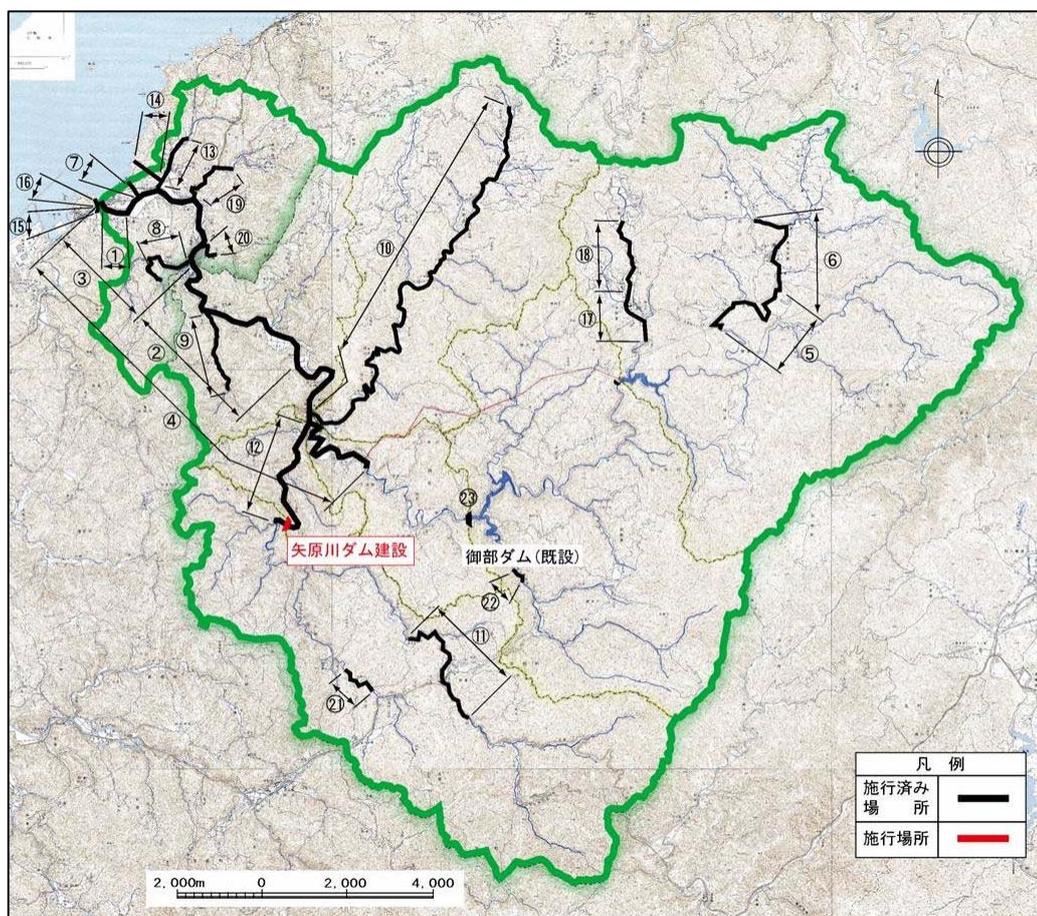


図 3-6 主な河川改修事業位置図

(4) 主要地点の流況

昭和44年から平成18年までの三隅大橋地点の現況流況を表3-2に示す。なお、流況は木都賀ダム流入量を用いた水収支計算により算出した。

表 3-2 三隅大橋地点流況

| 三隅大橋【通年】 | | CA=214.5km ² | | | | |
|-------------------|------------|-------------------------|--------|-------|-------|-------|
| | 最大流量 | 豊水流量 | 平水流量 | 低水流量 | 渇水流量 | 最小流量 |
| 昭和43年 | 64.003 | 12.065 | 6.189 | 4.522 | 2.163 | 1.802 |
| 昭和44年 | 155.475 | 12.575 | 8.448 | 5.517 | 3.008 | 2.565 |
| 昭和45年 | 58.244 | 11.340 | 8.006 | 6.189 | 4.437 | 2.346 |
| 昭和46年 | 92.326 | 12.405 | 8.252 | 5.479 | 2.827 | 2.360 |
| 昭和47年 | 609.710 | 17.489 | 12.508 | 7.941 | 4.437 | 4.060 |
| 昭和48年 | 73.690 | 9.824 | 4.825 | 2.812 | 1.416 | 0.704 |
| 昭和49年 | 93.131 | 10.040 | 6.165 | 4.677 | 2.344 | 1.983 |
| 昭和50年 | 68.334 | 12.324 | 8.326 | 5.442 | 3.885 | 2.163 |
| 昭和51年 | 88.716 | 12.821 | 8.940 | 6.617 | 3.549 | 2.163 |
| 昭和52年 | 40.315 | 10.070 | 5.660 | 4.281 | 2.285 | 1.802 |
| 昭和53年 | 32.248 | 9.128 | 5.720 | 3.354 | 1.802 | 0.964 |
| 昭和54年 | 136.605 | 11.445 | 7.565 | 5.117 | 2.524 | 2.344 |
| 昭和55年 | 248.675 | 14.520 | 11.032 | 7.760 | 4.921 | 4.241 |
| 昭和56年 | 182.543 | 11.604 | 8.252 | 6.189 | 4.062 | 2.166 |
| 昭和57年 | 76.623 | 11.215 | 7.565 | 4.617 | 2.163 | 1.625 |
| 昭和58年 | 231.186 | 12.570 | 8.006 | 5.501 | 3.549 | 2.166 |
| 昭和59年 | 44.372 | 10.239 | 6.189 | 4.302 | 2.285 | 1.229 |
| 昭和60年 | 656.744 | 11.723 | 7.453 | 5.298 | 2.705 | 2.344 |
| 昭和61年 | 99.435 | 10.070 | 6.594 | 4.727 | 2.646 | 2.344 |
| 昭和62年 | 183.639 | 12.821 | 8.569 | 6.053 | 4.364 | 2.527 |
| 昭和63年 | 289.811 | 9.637 | 6.625 | 5.284 | 4.066 | 2.716 |
| 平成元年 | 172.320 | 13.067 | 8.168 | 5.942 | 4.060 | 2.688 |
| 平成2年 | 73.432 | 11.445 | 8.940 | 6.189 | 2.705 | 2.059 |
| 平成3年 | 97.571 | 13.092 | 9.625 | 5.943 | 3.671 | 1.923 |
| 平成4年 | 37.413 | 10.064 | 6.053 | 4.302 | 2.244 | 1.742 |
| 平成5年 | 175.198 | 14.538 | 10.134 | 6.871 | 4.065 | 2.285 |
| 平成6年 | 48.235 | 8.940 | 4.632 | 2.344 | 0.737 | 0.704 |
| 平成7年 | 156.495 | 9.824 | 6.370 | 4.740 | 2.466 | 2.104 |
| 平成8年 | 86.671 | 10.059 | 6.191 | 4.545 | 2.646 | 2.178 |
| 平成9年 | 593.364 | 12.753 | 8.585 | 6.324 | 4.183 | 2.104 |
| 平成10年 | 114.801 | 11.094 | 8.237 | 5.298 | 3.008 | 2.646 |
| 平成11年 | 173.652 | 7.455 | 5.346 | 4.447 | 2.646 | 2.227 |
| 平成12年 | 91.182 | 9.529 | 6.275 | 4.368 | 2.357 | 2.139 |
| 平成13年 | 120.501 | 10.963 | 7.206 | 5.095 | 3.254 | 2.464 |
| 平成14年 | 48.604 | 8.097 | 5.652 | 3.239 | 1.426 | 0.835 |
| 平成15年 | 76.051 | 13.213 | 8.808 | 5.840 | 2.399 | 1.923 |
| 平成16年 | 133.500 | 11.563 | 6.793 | 5.162 | 2.899 | 2.260 |
| 平成17年 | 94.368 | 10.202 | 6.149 | 4.388 | 2.285 | 2.084 |
| 平成18年 | 179.966 | 12.441 | 8.601 | 5.730 | 2.952 | 2.409 |
| | 平均 | 11.391 | 7.504 | 5.191 | 2.960 | 2.138 |
| 39年間(昭和43年～平成18年) | (比流量) | (5.3) | (3.5) | (2.4) | (1.4) | (1.0) |
| | 1/10(3/39) | 8.940 | 5.346 | 3.239 | 1.426 | 0.835 |
| | (比流量) | (4.2) | (2.5) | (1.5) | (0.7) | (0.4) |

※太枠は、39ヵ年第3位の値

[備考] ・豊水：1年を通じて95日はこれを下らない流量
 ・平水：1年を通じて185日はこれを下らない流量
 ・低水：1年を通じて275日はこれを下らない流量
 ・渇水：1年を通じて355日はこれを下らない流量

(5) 水利用

三隅川の水利用は、主に発電用水とかんがい用水に利用されている。

三隅川の水利用一覧を下表に示す。

表 3-3 発電用水

| 河川名 | 発電所名 | 発電型式 (ダム名) | 出力 (kW) | | 使用水量(m ³ /s) | |
|-----|--------|---------------------|---------|-------|-------------------------|------|
| | | | 最大 | 常時 | 最大 | 常時 |
| 三隅川 | 御部 | 利水従属式・ダム式 (御部ダム) | 460 | 142 | 2.00 | 1.02 |
| 三隅川 | 三隅川発電所 | ダム水路式 (木都賀ダム) | 7,400 | 2,000 | 4.70 | 1.58 |
| 矢原川 | 矢原川 | 水路式 | 100 | 70 | 0.50 | 0.38 |

表 3-4 水道用水

| 河川名 | 用水名 | 管理者 | 取水量 | 備考 |
|-----|----------|-----|--|-----------------|
| 矢原川 | 二川地区簡易水道 | 益田市 | 0.0009 m ³ /s (78.3 m ³ /日) | 堀河頭首工より 通常取水 |

表 3-5 農業用水一覧表

| 河川名 | 区間 | ダム 補給 | 施設名 | 法 | 受益面積 (ha) | 用 水 量 (m ³ /s) | | | | |
|-------------|---------------------------------|----------|---------------|---|--------------|---------------------------|-----------|----------|-----------|--------|
| | | | | | | 代かき期 | 代掻最大用水量 | 普通期 | 普通期用水量 | |
| 三隅川 | 木都賀ダム上流 | | 竹添用水 | 左 | 慣 | 5.20 | | 0.0354 | 0.0212 | |
| | | | 小原頭首工 | 左 | 慣 | 2.16 | | 0.0147 | 0.0088 | |
| | | | 山根前堰 | 右 | 慣 | 1.00 | | 0.0068 | 0.0041 | |
| | | | 大元堰 | 左 | 慣 | 3.54 | 4/10-4/15 | 0.0241 | 0.0145 | |
| | | | たずのき揚水機 | 左 | 法 | 1.12 | | 0.0092 | 0.0055 | |
| | | | 上ミ畑用水 | 左 | 慣 | 0.70 | | 0.0048 | 0.0029 | |
| | | | 新畑頭首工 | 右 | 慣 | 1.00 | | 0.0068 | 0.0041 | |
| | | | 飯田用水 | 左 | 慣 | 2.50 | | 0.0170 | 0.0102 | |
| | | | 小計 | | | 17.22 | | 0.1188 | 0.0713 | |
| | 下 部 ダ ム 流 | ● | 笹ヶ瀬頭首工 | 右 | 慣 | 1.20 | 4/5-4/20 | 0.0029 | 4/21-9/10 | 0.0036 |
| | | ● | 下古和本郷堰 | 左 | 法 | 21.30 | 4/26-5/10 | 0.0524 | 4/10-9/20 | 0.0632 |
| | | | 小計 | | | 22.50 | | 0.0553 | 0.0668 | |
| | 矢 流 原 川 下 合 流 | ● | 西方寺原揚水機場 | 左 | 法 | 32.42 | 4/19-5/10 | 0.0696 | 4/10-9/20 | 0.0962 |
| | | ● | 岡崎用水路 | 右 | 法 | 5.96 | 5/7-5/10 | 0.0309 | 5/1-9/20 | 0.0177 |
| | | ● | 上古市, 下古市場揚水機場 | 左 | 法 | 20.01 | 5/1-5/31 | 0.0390 | 4/1-9/20 | 0.0594 |
| | | 小計 | | | 58.39 | | 0.1395 | 0.1733 | | |
| 矢 原 川 | ダ ム サ イ ト 上 流 | | 堀河頭首工 | 右 | 法 | 1.10 | 4/20-5/15 | 0.0121 | 5/16-8/31 | 0.0045 |
| | | | 油免頭首工 | 左 | 慣 | 4.00 | | 0.0106 | 0.0120 | |
| | | | 向井原頭首工 | 左 | 慣 | 2.50 | | 0.0066 | 0.0075 | |
| | | | みどりや沖頭首工 | 右 | 慣 | 0.70 | 4/20-5/15 | 0.0019 | 0.0021 | |
| | | | 明ヶ添頭首工 | 左 | 慣 | 4.20 | | 0.0112 | 0.0126 | |
| | | | 又六頭首工 | 左 | 慣 | 1.22 | | 0.0032 | 0.0037 | |
| | | | 松尾谷頭首工 | 右 | 慣 | 0.20 | | 0.0005 | 0.0006 | |
| | | | 梅ノ木頭首工 | 左 | 法 | 1.20 | 5/10 | 0.0196 | 0.0036 | |
| | | 田中頭首工 | 右 | 法 | 2.50 | 5/9-5/10 | 0.0223 | 5/1-9/20 | 0.0074 | |
| | | 小計 | | | 17.62 | 12.82 | 0.0889 | 0.0548 | | |
| | ダ 下 ム 流 | ● | 権現頭首工 | 右 | 法 | 5.30 | 5/7-5/10 | 0.0275 | 5/1-9/20 | 0.0157 |
| | | ● | 舟原井堰 | 右 | 法 | 1.60 | 5/9-5/10 | 0.0142 | 0.0047 | |
| | | | 小計 | | | 6.90 | | 0.0417 | 0.0205 | |

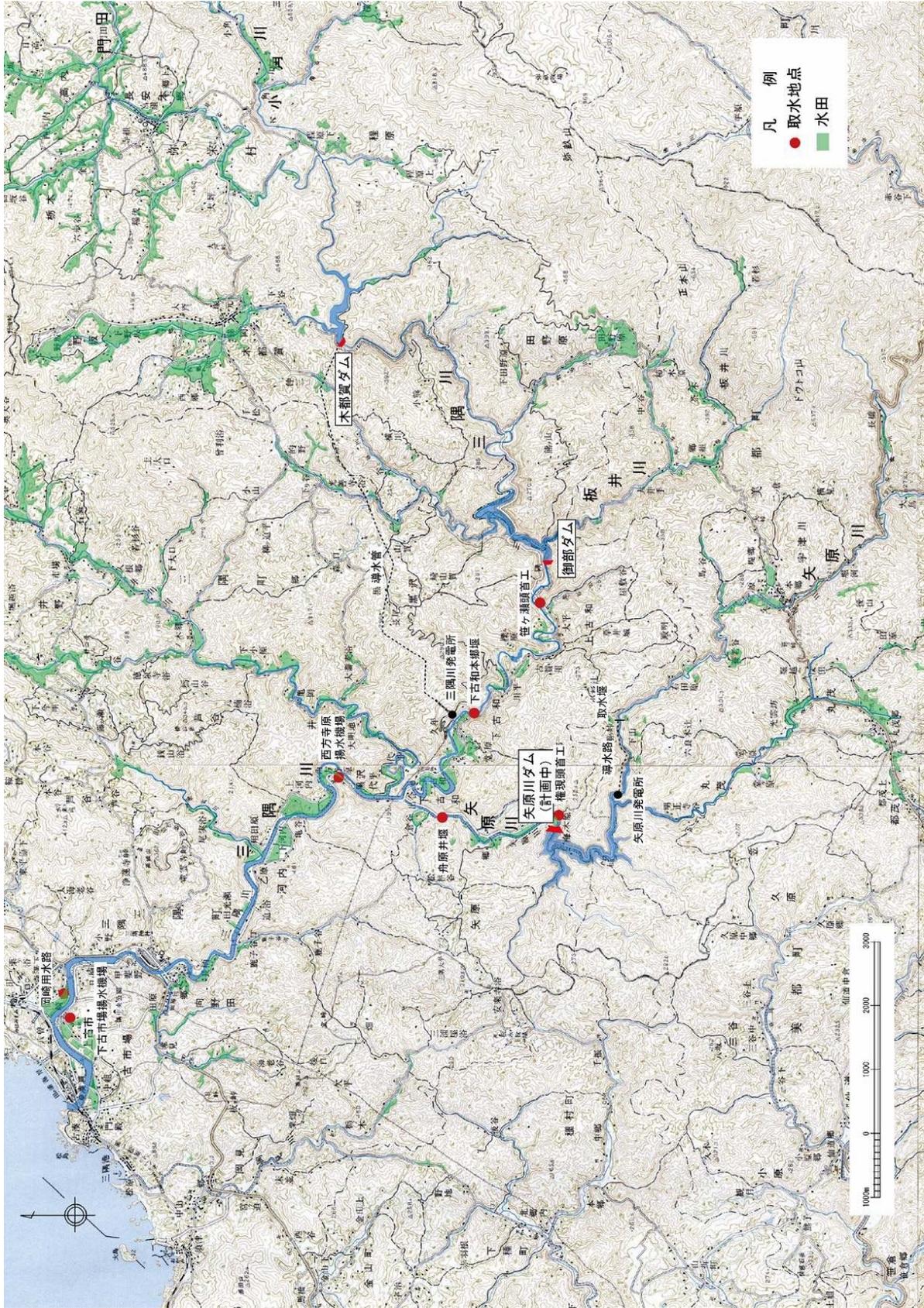


図 3-7 取水施設位置図(ダム補給分)

(6) 漁業

三隅川は、三隅川水系全域で漁業権（内共第9号）が設定されており、アユ・コイ・ウナギ・ヤマメ（アマゴ、降海型ヤマメ・アナゴ含む）・ゴギ（イワナ含む）・モクズガニを対象とした竿釣りや投網漁などが行われている。特にアユ釣りや溪流釣りが盛んであり、このうちアユは総漁獲量の約7割を占める。

表 3-6 内水面漁業権免許

| 種類 | 受有者 | 内容 | | 漁場の位置 |
|------------------|---------------|-----|---|-------------|
| 共同漁業権 (内共第9号) | 三隅川漁業 協同組合 | 第5種 | あゆ漁業、こい漁業、うなぎ漁業、やまめ（あまご、降海型やまめ・あなご含む）漁業、ごぎ（いわな含む）漁業、もくずがに漁業 | 三隅川水系 全域 |

表 3-7 三隅川魚種別漁獲量

(単位：kg)

| 魚種 | H10年度 | H11年度 | H12年度 | H13年度 | H14年度 | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | H19年度 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| アユ | 600 | 1,000 | 2,500 | 3,500 | 2,800 | 2,300 | 1,000 | 1,500 | 2,000 | 2,000 |
| コイ | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 30 | 30 | 30 | 10 | 10 |
| ウナギ | 60 | 70 | 100 | 150 | 150 | 120 | 200 | 200 | 300 | 500 |
| ヤマメ類 | 60 | 100 | 130 | 130 | 130 | 120 | 150 | 150 | 150 | 150 |
| カニ類 | 110 | 80 | 300 | 1,000 | 800 | 600 | 600 | 600 | 600 | 600 |
| 総計 | 880 | 1,300 | 3,080 | 4,830 | 3,930 | 3,170 | 1,980 | 2,480 | 3,060 | 3,260 |

出典：三隅川漁協資料

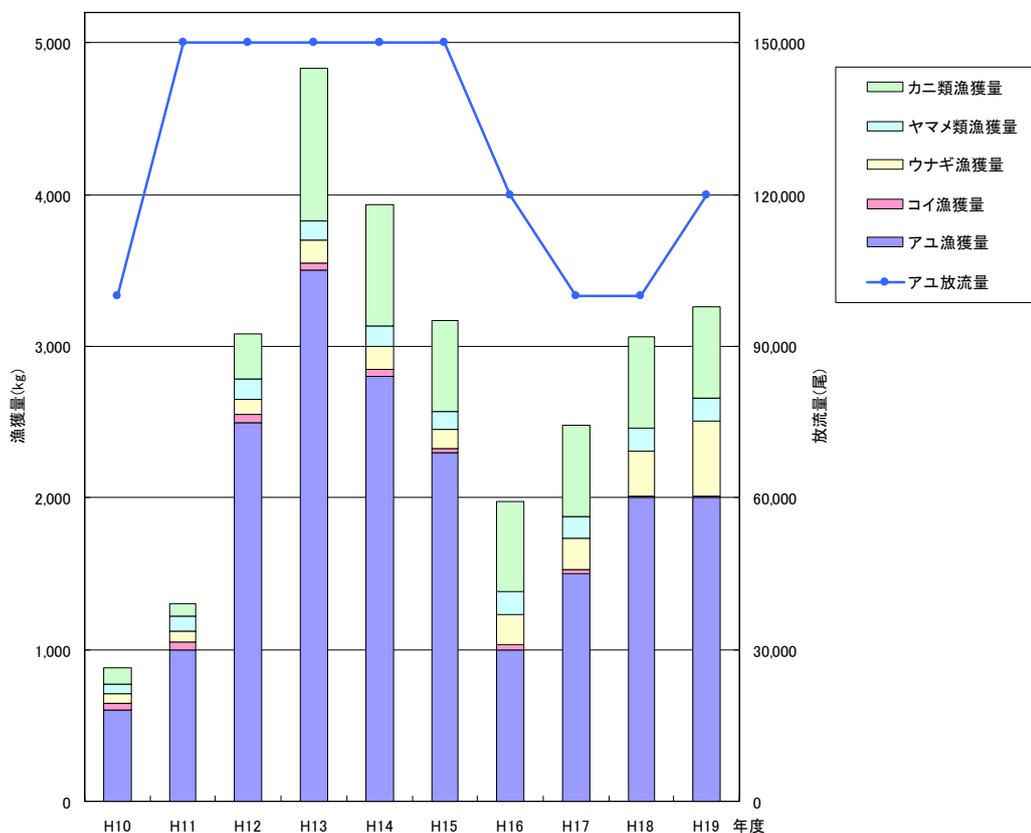


図 3-8 三隅川における漁獲量

(7) 河川環境整備の概要

河川に関するイベントや愛護活動等を表 3-8に示す。

表 3-8 (1) 河川に関するイベント

| 区分 | 町村名 | 河川名 | 名 称 | 期 日 | 主 催 | 概 要 |
|------------------|------------|-----|----------|-----|-------|--|
| イ ベ ン ト | 浜田市 弥栄町 | 三隅川 | | 5月 | 実行委員会 | ヤマメ、アユの放流が行われている。 |
| | 〃 | 〃 | キャンプ | — | 実行委員会 | 御部ダム周辺公園として、キャンプ場、遊具などが設置され、テニス・ゲートボールなども楽しめる。  道猿坊主公園 |
| | 〃 | 〃 | トライアル大会 | — | 実行委員会 | 年1回道猿坊公園で開催される。 |
| | 〃 | 〃 | みやび湖マラソン | — | 実行委員会 | みやび湖周辺道路を利用したマラソン及びウォーキング |
| | 益田市 美都町 | 矢原川 | 温泉祭 | 5月 | 実行委員会 | 年1回温泉広場で開催される。 |
| | 〃 | 〃 | 蛍 祭 | 6月 | 実行委員会 | 年1回温泉広場で開催される。 |
| | 〃 | 板井川 | 十七夜祭 | 7月 | 自治会 | 年1回、双川峡で開催される。 |

表 3-8 (2) 河川の愛護活動

| 区分 | 町村名 | 河川名 | 名 称 | 概要 |
|-------|------------|-----|------------|---|
| 愛護活動等 | 浜田市 三隅町 | 三隅川 | みず澄まし三隅 | <p>環境問題に関心を持つ人々が集い、環境にやさしい町づくりを推進し、自然豊かな三隅川を後世に残すことを目的とした会。</p> <p>活動の一環として、三隅川の水生生物の観察や川の清掃、小学校での総合学習への協力支援等を通じ、三隅川の環境保全に取り組んでいる。</p>  |
| | 浜田市 弥栄町 | 三隅川 | グリーンツーンネット | <p>水の起源である、山や森への意識を高め、植樹による森林の保全活動や水生生物観察などの小中学校での総合学習への協力支援を中心に活動している。</p> <p>三隅川漁協と連携し、ブラックバス釣り大会の開催など、廃校小学校をキャンプ場として開設し、水源のブナ林から三隅川河口まで自然体験をサポートするエコツアーリズムを展開し、自然保護の啓発活動に取り組んでいる。</p>  |

(8) 河川水質

三隅川水系には生活環境の保全に関する環境基準点は設定されていない。水質観測が行われている三隅大橋地点および倉谷橋地点のBOD(75%値)は、環境基準のAA類型相当である1mg/l程度を推移しており、水質は良好であるといえる。

BOD(75%値)の推移を図3-9に示す。

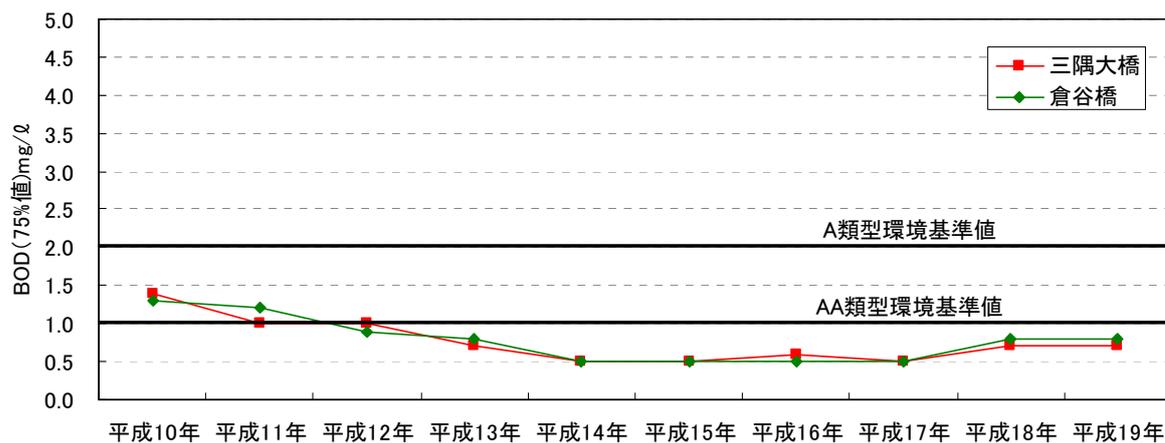


図 3-9 BOD の推移

表 3-9 生活環境の保全に関する環境基準(河川)

河川(湖沼を除く。)

| 項目 類型 | 利用目的の 適応性 | 基準値 | | | | |
|--|-------------------------------------|---------------------|-------------------------|----------------------|---------------|----------------------|
| | | 水素イオン 濃度 (pH) | 生物化学的 酸素要求量 (BOD) | 浮遊物質 量 (SS) | 溶存酸素量 (DO) | 大腸菌群数 |
| AA | 水道1級 自然環境保全及びA 以下の欄に掲げるもの | 6.5 以上 8.5 以下 | 1 mg/L 以下 | 25mg/L 以下 | 7.5mg/L 以上 | 50MPN/100mL 以下 |
| A | 水道2級 水産1級 水浴及びB以下の欄 に掲げるもの | 6.5 以上 8.5 以下 | 2 mg/L 以下 | 25mg/L 以下 | 7.5mg/L 以上 | 1,000MPN/100mL 以下 |
| B | 水道3級 水産2級 及びC以下の欄に掲 げるもの | 6.5 以上 8.5 以下 | 3 mg/L 以下 | 25mg/L 以下 | 5 mg/L 以上 | 5,000MPN/100mL 以下 |
| C | 水産3級 工業用水1級 及びD以下の欄に掲 げるもの | 6.5 以上 8.5 以下 | 5 mg/L 以下 | 50mg/L 以下 | 5 mg/L 以上 | — |
| D | 工業用水2級 農業用水及びEの欄 に掲げるもの | 6.0 以上 8.5 以下 | 8 mg/L 以下 | 100 mg/L 以下 | 2 mg/L 以上 | — |
| E | 工業用水3級 環境保全 | 6.0 以上 8.5 以下 | 10mg/L 以下 | ごみ等の浮遊が認め られないこと。 | 2 mg/L 以上 | — |
| 備考) | | | | | | |
| 1. 基準値は、日間平均値とする(湖沼、海域もこれに準ずる。) | | | | | | |
| 2. 農業用利水点については、水素イオン濃度 6.0 以上 7.5 以下、溶存酸素量 5mg/L 以上とする(湖沼もこれに準ずる。) | | | | | | |

- 注) 1. 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
 2. 水道1級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
 水道2級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
 水道3級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
 3. 水産1級：ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用
 水産2級：サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産3級の水産生物用
 水産3級：コイ、フナ等、β-中腐水性水域の水産生物用
 4. 工業用水1級：沈殿等による通常の浄水操作を行うもの
 工業用水2級：薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの
 工業用水3級：特殊の浄水操作を行うもの
 5. 環境保全：国民の日常生活(沿岸の遊歩等を含む。)において不快感を生じない限度

(9) 住民アンケート

河川整備計画策定にあたり、三隅川流域住民にアンケートを実施した。

1) アンケート概要

○期間、配布地区

アンケート期間 : 平成20年8月1日～15日

配布地区 : 三隅川流域全世帯

○アンケート回収数

一般（各市より配布される広報にあわせて配布し、返信ハガキによる回収）

| 配布世帯数 | 回収枚数 |
|---------|------|
| 1,532世帯 | 209枚 |

回収率 14%

小学校（5、6年生を対象）

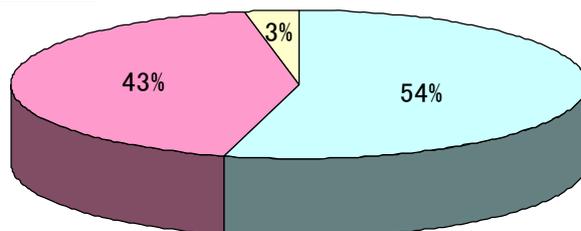
| 小学校 | 回収枚数（枚） |
|-------|---------|
| 三隅小学校 | 80 |
| 弥栄小学校 | 29 |
| 合計 | 109 |

回収率 100%

2) アンケート内容及び結果

○性別

| 項目 | 人数(人) | 割合(%) |
|------|-------|-------|
| ①男 | 172 | 54 |
| ②女 | 136 | 43 |
| ③無回答 | 10 | 3 |

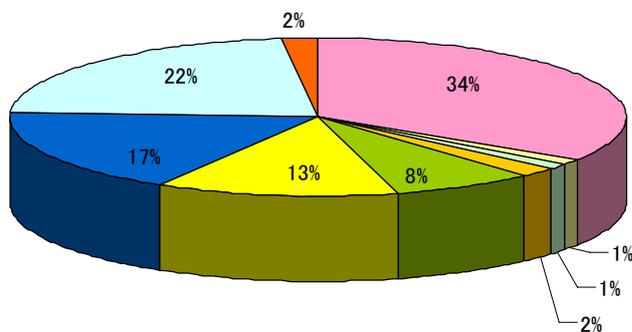


【回答の傾向】

- 男性と女性の比率は、概ね半々であり、性別による偏りはない。

○年齢構成

| 項目 | 人数(人) | 割合(%) |
|-------|-------|-------|
| 小学生 | 109 | 34 |
| 10代 | 3 | 1 |
| 20代 | 4 | 1 |
| 30代 | 6 | 2 |
| 40代 | 24 | 8 |
| 50代 | 40 | 13 |
| 60代 | 55 | 17 |
| 70歳以上 | 71 | 22 |
| 無回答 | 6 | 2 |



【回答の傾向】

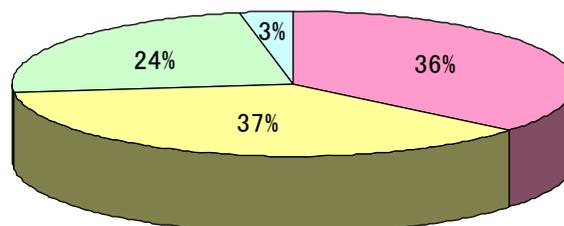
- 小学生、10代から50代、60歳以上が約1/3ずつとなっている。
- 回答者数と年齢構成のバランスを考慮し、次の設問から、「小学生」、「30代以下」、「40代」、「50代」、「60歳以上」の5区分に分けて集計する。
- * 「30代以下」については、昭和58年災害について未経験もしくは記憶のない年齢区分

○三隅川（水系）に対するイメージや利用状況についてお聞きします。

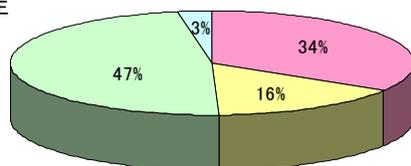
問3. 三隅川はきれいな川であると思いますか？

| 項目 | 小学生 | | 30代以下 | | 40代 | | 50代 | | 60代以上 | | 無回答 人数 (人) | 合計 | |
|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------------|-----------|-----------|
| | 人数 (人) | 割合 (%) | | 人数 (人) | 割合 (%) |
| ① そう思う | 37 | 34% | 4 | 31% | 5 | 21% | 16 | 40% | 52 | 41% | 1 | 115 | 36% |
| ② そう思わない | 17 | 16% | 4 | 31% | 14 | 58% | 19 | 48% | 63 | 50% | 0 | 117 | 37% |
| ③ わからない | 52 | 48% | 5 | 38% | 4 | 17% | 5 | 13% | 10 | 8% | 0 | 76 | 24% |
| ④ 無回答 | 3 | 3% | 0 | 0% | 1 | 4% | 0 | 0% | 1 | 1% | 5 | 10 | 3% |

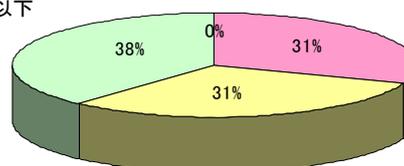
全体



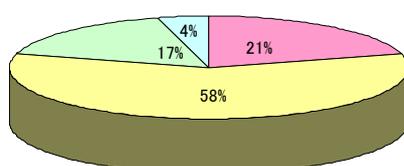
小学生



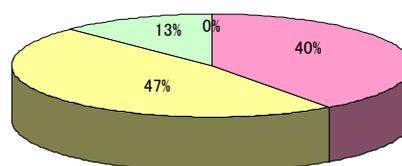
30代以下



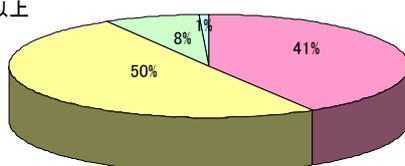
40代



50代



60代以上



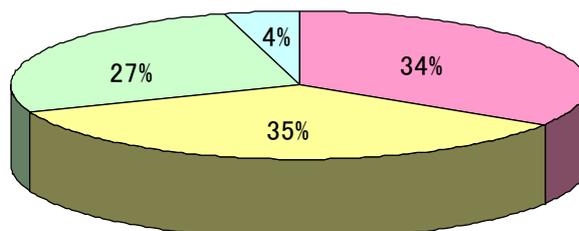
【回答の傾向】

- 全体では「きれいな川と思う」、「きれいな川と思わない」が概ね同数である。
- 河川利用の多い小学生（問7参照）においては、「きれいな川と思う」が多い。
- 河川利用の少ない「40代以上」（問7参照）では、「きれいな川と思わない」が多い。
- 河道内の草が、「きれいな川と思わない」という回答に結びついていることも考えられる。
- 地域活動の一環である清掃活動の主な参加者であると思われる40代以上は、三隅川の濁度や川の状況を直接確認し感じられた結果であると思われる。
- 三隅川の水質は、環境基準のAA類型相当と良好であり、水質データと実感との違いがある。

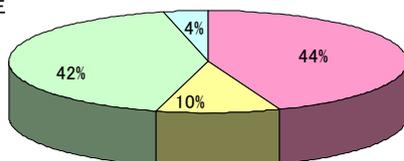
問4. 三隅川は魚がたくさんすんでいる川であると思いますか？

| 項目 | 小学生 | | 30代以下 | | 40代 | | 50代 | | 60代以上 | | 無回答 | 合計 | |
|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 人数 (人) | 割合 (%) | 人数 (人) | 人数 (人) | 割合 (%) |
| ① そう思う | 48 | 44% | 4 | 31% | 4 | 17% | 10 | 25% | 41 | 33% | 1 | 108 | 34% |
| ② そう思わない | 11 | 10% | 2 | 15% | 16 | 67% | 21 | 53% | 62 | 49% | 0 | 112 | 35% |
| ③ わからない | 46 | 42% | 7 | 54% | 4 | 17% | 8 | 20% | 20 | 16% | 0 | 85 | 27% |
| ④ 無回答 | 4 | 4% | 0 | 0% | 0 | 0% | 1 | 3% | 3 | 2% | 5 | 13 | 4% |

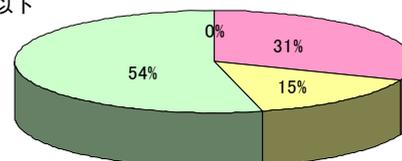
全体



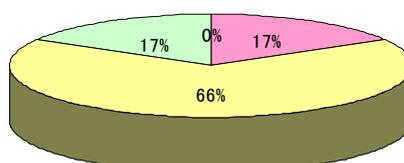
小学生



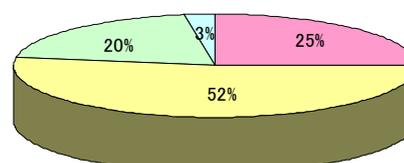
30代以下



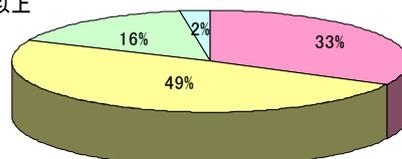
40代



50代



60代以上



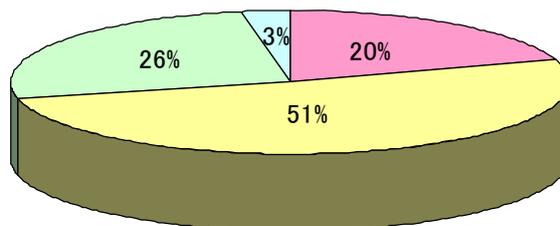
【回答の傾向】

- 全体では「魚がたくさんすんでいる川と思う」、「魚がたくさんすんでいる川と思わない」が概ね同数である。
- 小学生は、稚魚の放流行事への参加や、総合学習等での水棲生物の観察を通じ、魚がたくさんすんでいるというイメージがある。
- 40～60代のS58災害経験者は、災害復旧により河川改修を行ってきた経緯から魚が少ないイメージがあると考えられる。
- 人目につく所に魚が少ないことも、魚が少ないイメージの要因と考えられる。

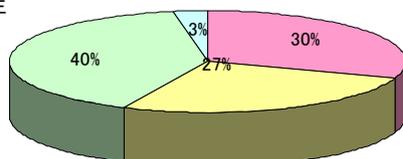
問5. 三隅川は安心して遊べる川だと思いますか？

| 項目 | 小学生 | | 30代以下 | | 40代 | | 50代 | | 60代以上 | | 無回答 | 合計 | |
|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 人数 (人) | 割合 (%) | 人数 (人) | 人数 (人) | 割合 (%) |
| ① そう思う | 33 | 30% | 1 | 8% | 2 | 8% | 7 | 18% | 21 | 17% | 0 | 64 | 20% |
| ② そう思わない | 29 | 27% | 7 | 54% | 18 | 75% | 26 | 65% | 82 | 65% | 1 | 163 | 51% |
| ③ わからない | 44 | 40% | 5 | 38% | 4 | 17% | 6 | 15% | 23 | 18% | 0 | 82 | 26% |
| ④ 無回答 | 3 | 3% | 0 | 0% | 0 | 0% | 1 | 3% | 0 | 0% | 5 | 9 | 3% |

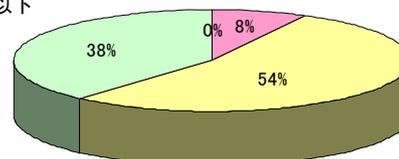
全体



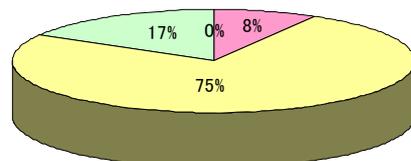
小学生



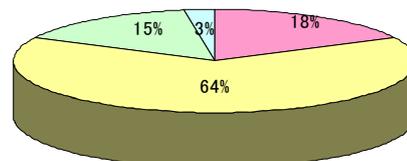
30代以下



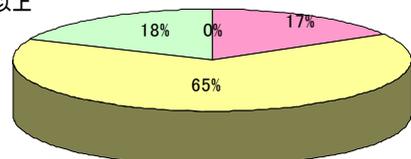
40代



50代



60代以上



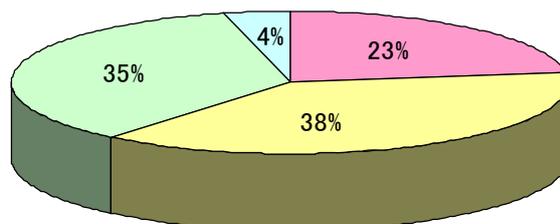
【回答の傾向】

- 全体では「安心して遊べる川と思わない」が多い。理由としては、以下のようなことが考えられる。
 - ・ 親水護岸として、整備されていない。
 - ・ 河道内に草が繁茂していることが、危険なイメージに捉えられている可能性がある。
 - ・ コンクリート護岸に対する圧迫感がある。
- 小学生においては、「安心して遊べる川と思う」と「安心して遊べる川と思わない」が概ね同数である。
- 30代以上については、「安心して遊べる川と思わない」が多い。

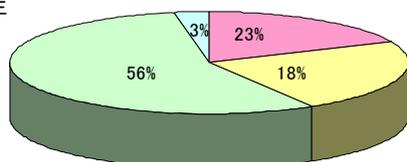
問6. 三隅川は洪水に対して安全な川だと思いますか？

| 項目 | 小学生 | | 30代以下 | | 40代 | | 50代 | | 60代以上 | | 無回答 | 合計 | |
|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 人数 (人) | 割合 (%) | 人数 (人) | 人数 (人) | 割合 (%) |
| ① そう思う | 20 | 18% | 6 | 46% | 11 | 46% | 12 | 30% | 22 | 17% | 1 | 72 | 23% |
| ② そう思わない | 25 | 23% | 3 | 23% | 7 | 29% | 14 | 35% | 73 | 58% | 0 | 122 | 38% |
| ③ わからない | 61 | 56% | 4 | 31% | 6 | 25% | 13 | 33% | 28 | 22% | 0 | 112 | 35% |
| ④ 無回答 | 3 | 3% | 0 | 0% | 0 | 0% | 1 | 3% | 3 | 2% | 5 | 12 | 4% |

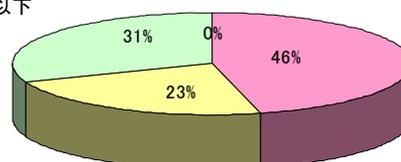
全体



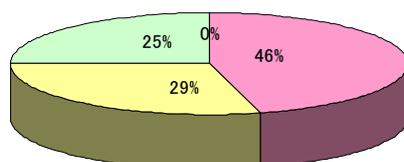
小学生



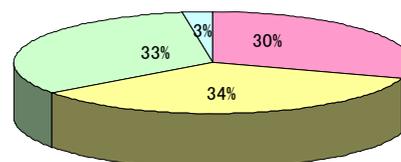
30代以下



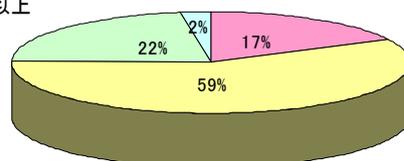
40代



50代



60代以上

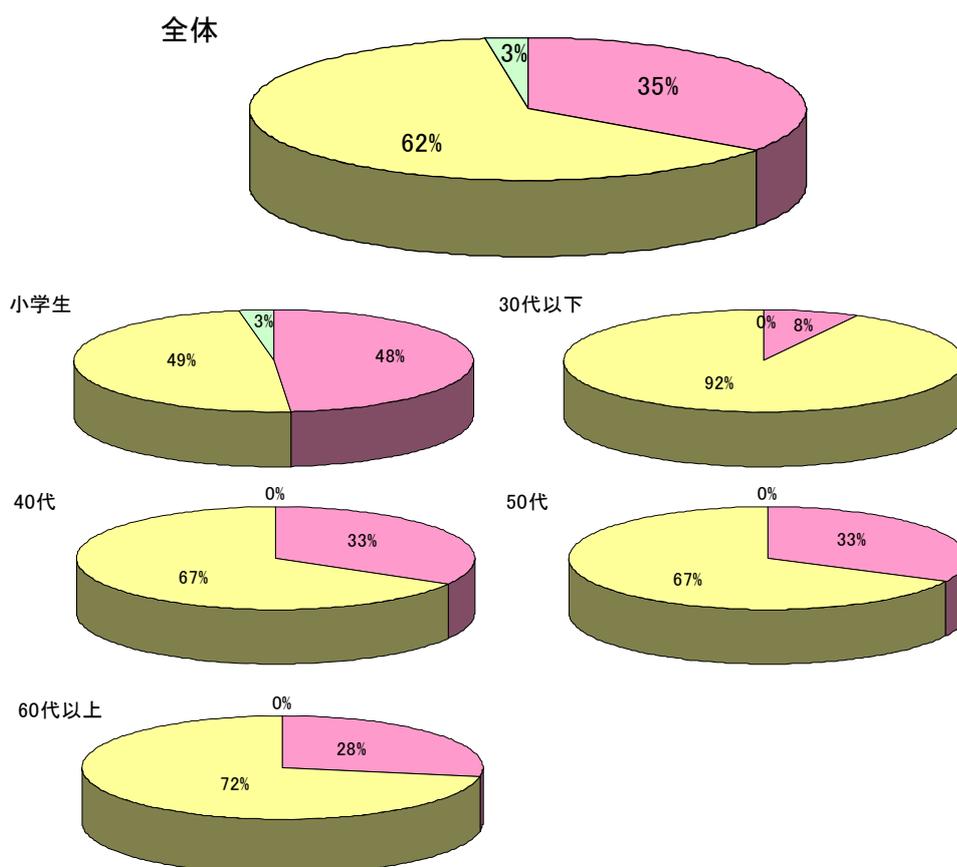


【回答の傾向】

- 全体では「洪水に対して安全な川と思わない」が多い。
- 特に、S58 災害経験者である年配層ほど、治水対策に対する意識が高い。
- 近年、災害が発生していない影響により、若年層では安全な川であるというイメージが大きいと考えられる。
- 災害が近年発生していないため、治水に対する意識が全体的に低くなり「わからない」の意見が多くなったと思われる。

問7. 近年、三隅川の川原まで下りたり、水につかって遊んだりしたことがありますか？

| 項目 | 小学生 | | 30代以下 | | 40代 | | 50代 | | 60代以上 | | 無回答 | 合計 | |
|------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 人数 (人) | 割合 (%) | 人数 (人) | 人数 (人) | 割合 (%) |
| ①ある | 53 | 49% | 1 | 8% | 8 | 33% | 13 | 33% | 35 | 28% | 0 | 110 | 35% |
| ②ない | 53 | 49% | 12 | 92% | 16 | 67% | 27 | 68% | 91 | 72% | 1 | 200 | 63% |
| ③無回答 | 3 | 3% | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% | 5 | 8 | 3% |

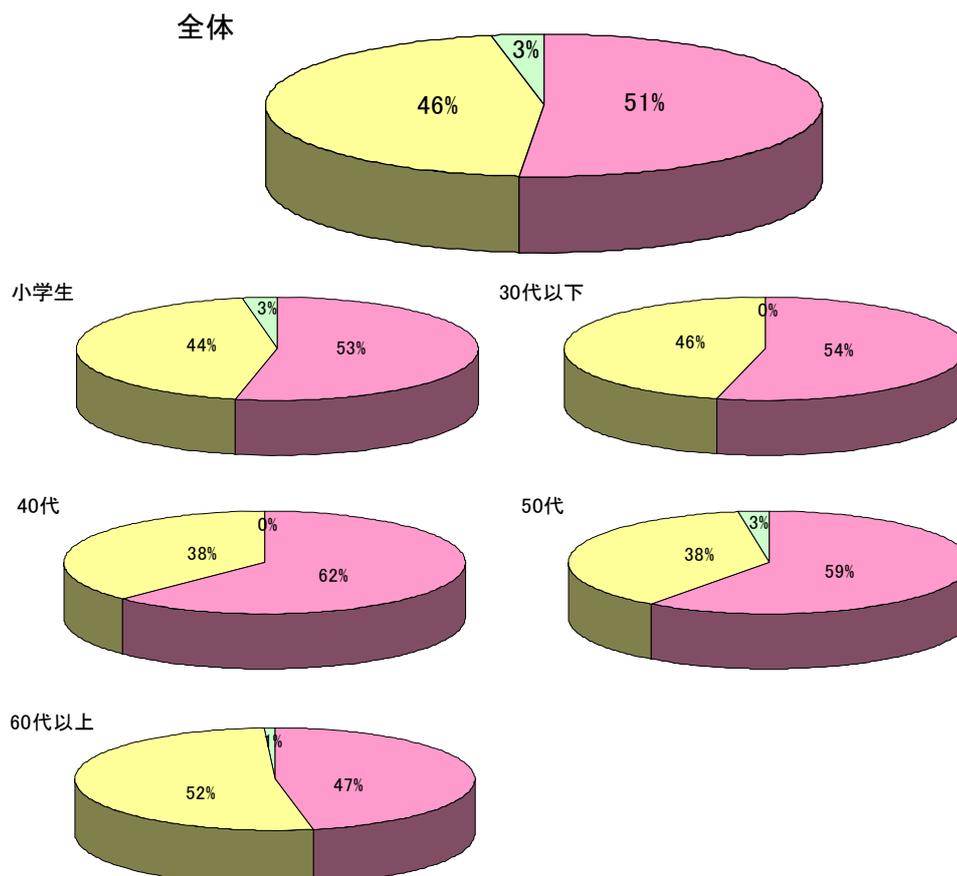


【回答の傾向】

- 全体では「利用したことがない」の意見が多く、川離れ傾向にある。
- 小学生の半数は、河川利用により川との関わりを持っている。

問 8. 御部ダムにはみやび湖や道猿坊公園がありますが、利用したことがありますか？

| 項目 | 小学生 | | 30代以下 | | 40代 | | 50代 | | 60代以上 | | 無回答 | 合計 | |
|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 人数 (人) | 割合 (%) | 人数 (人) | 人数 (人) | 割合 (%) |
| ①利用したことがある | 58 | 53% | 7 | 54% | 15 | 63% | 24 | 60% | 59 | 47% | 0 | 163 | 51% |
| ②利用したことがない | 48 | 44% | 6 | 46% | 9 | 38% | 15 | 38% | 66 | 52% | 1 | 145 | 46% |
| ③無回答 | 3 | 3% | 0 | 0% | 0 | 0% | 1 | 3% | 1 | 1% | 5 | 10 | 3% |

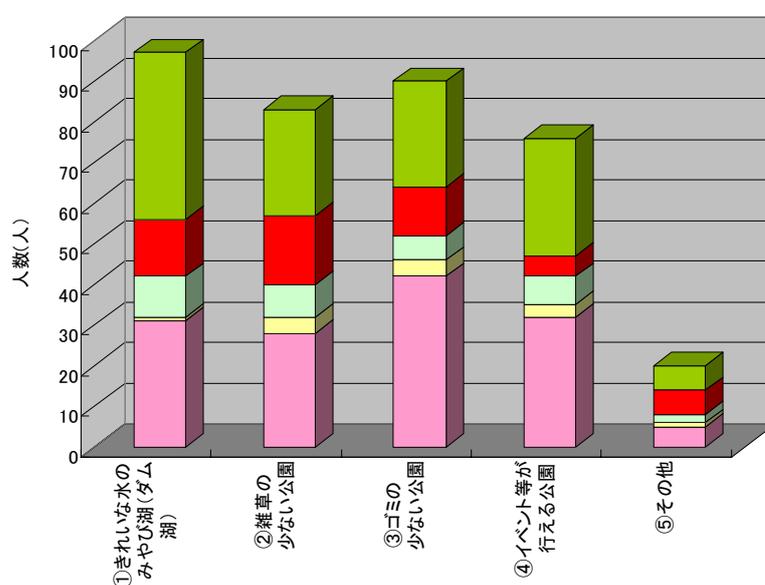


【回答の傾向】

- 50代以下の層では、概ね6割の人が利用したことがあり、地元でも「みやび湖」「道猿坊公園」に対する認知度が高い。
- 60歳以上の層では、施設までの交通の利便性等により、利用率が低い。

問9. 問8で①「利用したことがある」と答えた方にお聞きします。より多くの人に利用してもらうためにはどのような管理をしていけば良いと思いますか？（複数回答可）

| 項目 | 人数（人） | | | | | | |
|------------------|-------|-------|-----|-----|-------|-----|-----|
| | 小学生 | 30代以下 | 40代 | 50代 | 60代以上 | 無回答 | 合計 |
| ①きれいな水のみやび湖（ダム湖） | 31 | 1 | 10 | 14 | 41 | 0 | 97 |
| ②雑草の少ない公園 | 28 | 4 | 8 | 17 | 26 | 0 | 83 |
| ③ゴミの少ない公園 | 42 | 4 | 6 | 12 | 26 | 0 | 90 |
| ④イベント等が行える公園 | 32 | 3 | 7 | 5 | 29 | 0 | 76 |
| ⑤その他 | 5 | 1 | 2 | 6 | 6 | 0 | 20 |
| 回答者数 | 58 | 7 | 13 | 24 | 58 | 0 | 160 |



○その他の自由回答

- ・ 観光案内
- ・ 積極的な PR
- ・ 標識の設置
- ・ 道路の整備
- ・ 魚釣りイベント、宣伝
- ・ 道路の整備
- ・ キャンプ場がある公園
- ・ 清潔なトイレの整備
- ・ ブラックバスなどの外来魚の排除
- ・ アオコ対策が必要
- ・ 川の中がキレイであってほしい
- ・ 川は生活の一部である（イベント、観光より流域住民のほこりになるように）

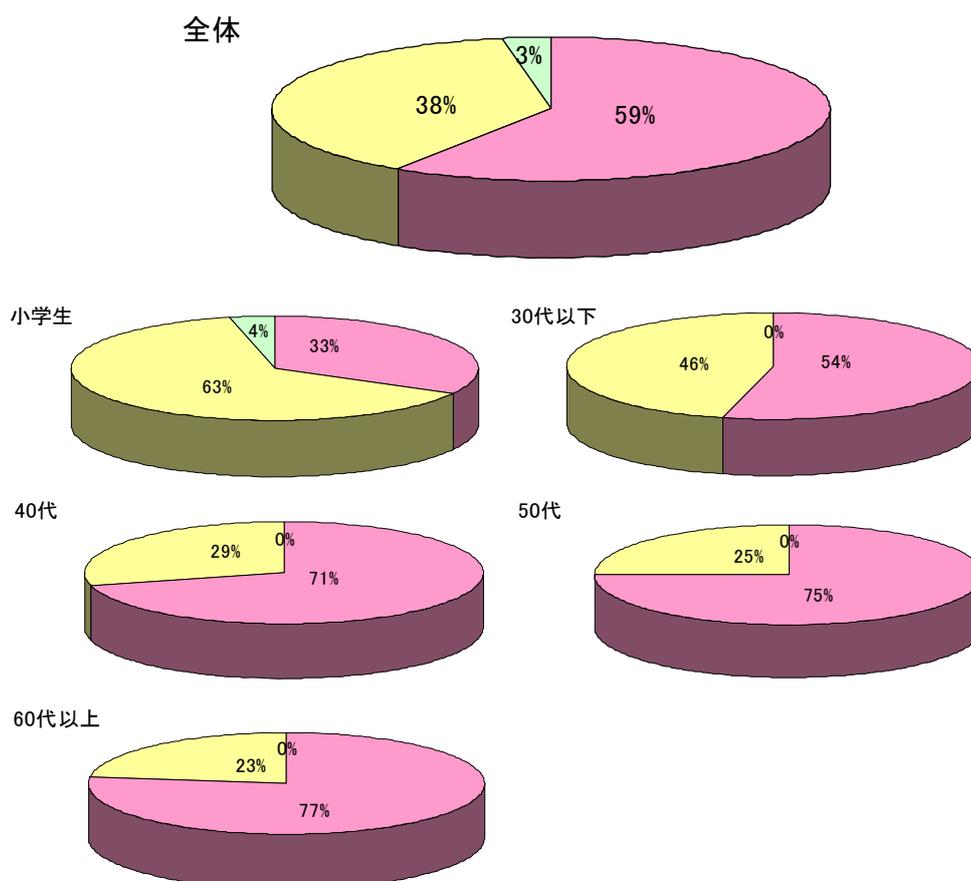
【回答の傾向】

- 「きれいな水」、「雑草」および「ゴミ」に対する管理を期待する意見が多く、清潔感が求められている。
- 「イベント等が行える公園」を期待する意見も多く、他目的施設としての拡充が求められている。

○ 三隅川（水系）で行われているさまざまな地域活動や環境活動の参加状況をお聞きます。

問10. 現在、三隅川では、みず澄まし三隅の会、グリーンツーネットによる生き物調査や水質調査、各自治会による堤防の草刈などの活動が行われていますが、ご存知ですか？

| 項目 | 小学生 | | 30代以下 | | 40代 | | 50代 | | 60代以上 | | 無回答 | 合計 | |
|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 人数 (人) | 割合 (%) | 人数 (人) | 人数 (人) | 割合 (%) |
| ①知っている | 36 | 33% | 7 | 54% | 17 | 71% | 30 | 75% | 97 | 77% | 1 | 188 | 59% |
| ②知らない | 69 | 63% | 6 | 46% | 7 | 29% | 10 | 25% | 29 | 23% | 0 | 121 | 38% |
| ③無回答 | 4 | 4% | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% | 5 | 9 | 3% |



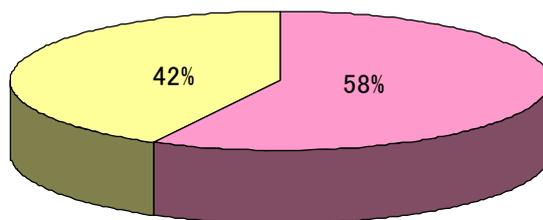
【回答の傾向】

○ 世代が上がるほど、「活動を知っている」の割合が大きくなっており、自治会活動にあまり関わりのない小学生で割合が小さいことから、自治会活動の認識が高いと考えられる。

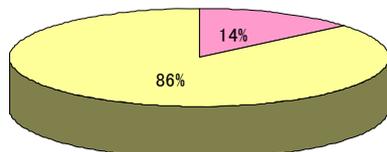
問11. 問10で①「知っている」と答えた方にお聞きします。このような活動に参加したことがありますか？

| 項目 | 小学生 | | 30代以下 | | 40代 | | 50代 | | 60代以上 | | 無回答 人数 (人) | 合計 | |
|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------------|-----------|-----------|
| | 人数 (人) | 割合 (%) | | 人数 (人) | 割合 (%) |
| ①参加したことがある | 5 | 14% | 4 | 57% | 8 | 57% | 18 | 60% | 68 | 74% | 1 | 104 | 58% |
| ②参加したことがない | 31 | 86% | 3 | 43% | 6 | 43% | 12 | 40% | 24 | 26% | 0 | 76 | 42% |

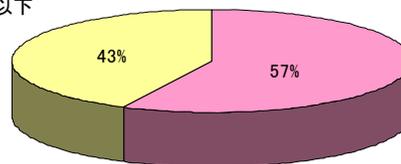
全体



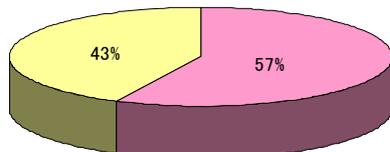
小学生



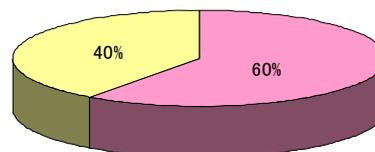
30代以下



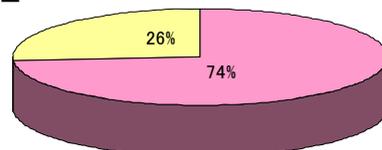
40代



50代



60代以上



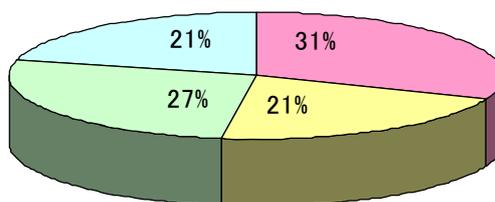
【回答の傾向】

- 問10より、主に自治会活動の認識と考えられるため、年齢層が高いほど参加率が高く、小学生においては参加率が低い。

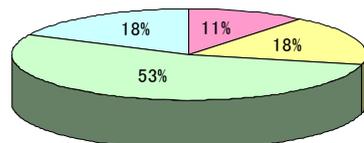
問12. 問11で②「参加したことがない」と答えた方にお聞きします。参加しなかった理由は何ですか？

| 項目 | 小学生 | | 30代以下 | | 40代 | | 50代 | | 60代以上 | | 無回答 人数(人) | 合計 | |
|-----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------|-------|-------|
| | 人数(人) | 割合(%) | | 人数(人) | 割合(%) |
| ①機会がなかった(機会があれば参加したい) | 3 | 11% | 2 | 67% | 2 | 33% | 5 | 45% | 10 | 43% | 0 | 22 | 31% |
| ②活動内容がよくわからない | 5 | 18% | 1 | 33% | 2 | 33% | 0 | 0% | 7 | 30% | 0 | 15 | 21% |
| ③参加する意志がない | 15 | 54% | 0 | 0% | 1 | 17% | 3 | 27% | 0 | 0% | 0 | 19 | 27% |
| ④その他 | 5 | 18% | 0 | 0% | 1 | 17% | 3 | 27% | 6 | 26% | 0 | 15 | 21% |

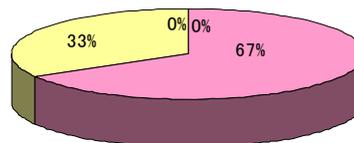
全体



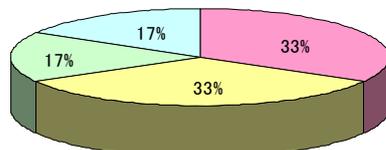
小学生



30代以下



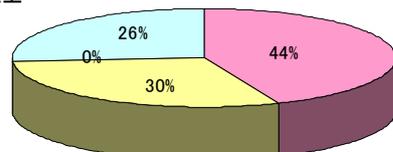
40代



50代



60代以上



○その他の自由回答

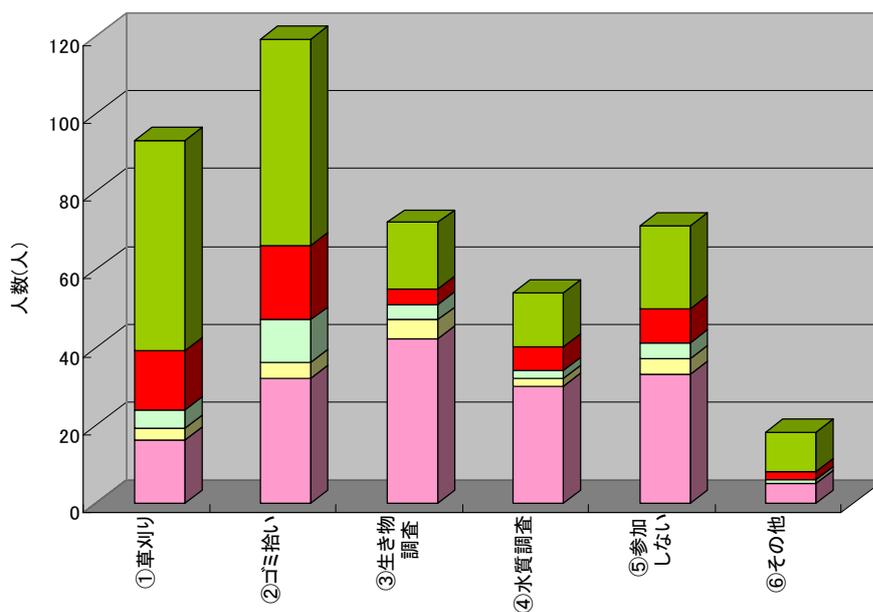
- ・ なにも話がないのでわからない
- ・ 当地に来て7年目、地域の情報に余り詳しくはない
- ・ 地域外だから情報が遅れる
- ・ 特定のグループで行われているため参加しづらい
- ・ 身体的、年齢的事情

【回答の傾向】

- 小学生においては、「活動に参加する意志がない」が多い。
- 30代以上においては参加意志があるものの時期等の都合上、参加していない人が多い。
- 自治会活動以外の活動については、内容を十分に理解されていないと思われる。

問13. 今後、どのような活動に参加したいと思いますか？（複数回答可）

| 項目 | 人数(人) | | | | | | 合計 |
|--------|-------|-------|-----|-----|-------|-----|-----|
| | 小学生 | 30代以下 | 40代 | 50代 | 60代以上 | 無回答 | |
| ①草刈り | 16 | 3 | 5 | 15 | 54 | 1 | 94 |
| ②ゴミ拾い | 32 | 4 | 11 | 19 | 53 | 1 | 120 |
| ③生き物調査 | 42 | 5 | 4 | 4 | 17 | 0 | 72 |
| ④水質調査 | 30 | 2 | 2 | 6 | 14 | 0 | 54 |
| ⑤参加しない | 33 | 4 | 4 | 9 | 21 | 0 | 71 |
| ⑥その他 | 5 | 0 | 1 | 2 | 10 | 0 | 18 |
| 回答者数 | 106 | 13 | 19 | 39 | 119 | 1 | 297 |



○その他の自由回答

- ・ イベント参加
- ・ たのしい事などみんながワクワクすること
- ・ 地球のためになること
- ・ 板井川までの草刈りをする
- ・ 参加したい活動があれば参加する
- ・ ダム湖周辺は貴重な植物があるため、保護活動など
- ・ 専門の方におまかせした方が良い仕事になる
- ・ 活動も大事、ゴミは気づいたら拾う、その時になっていないと分からない
- ・ 身体的、年齢的都合のため参加できない
- ・ 不必要な植樹は許可しないでほしい

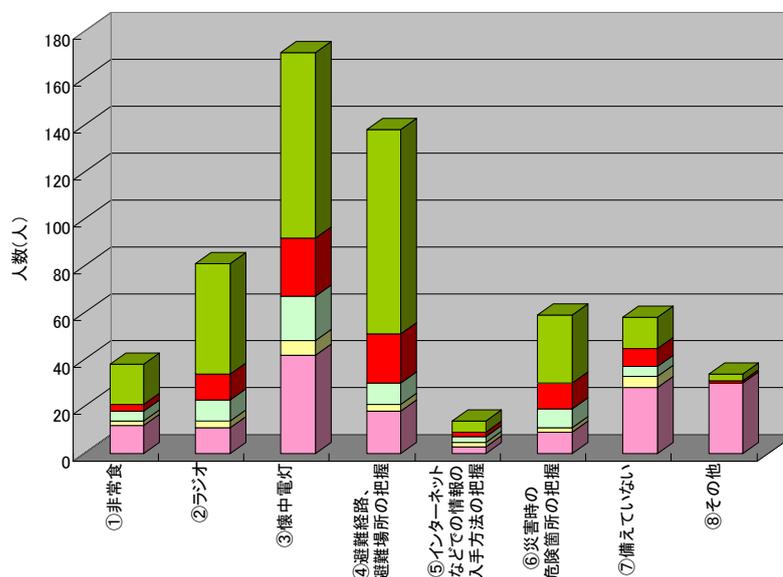
【回答の傾向】

- 全体では、「草刈り」、「ゴミ拾い」といった清潔感を求める活動内容の回答が多い。
- 小学生においては、「生き物調査」、「水質調査」といった河川との関わりを求める回答が多い。

○ 洪水に関する情報についてお聞きします。

問 1 4. 災害時のために日ごろどのような備えをしていますか？（複数回答可）

| 項目 | 人数（人） | | | | | | 無回答 | 合計 |
|------------------------|-------|-------|-----|-----|-------|---|-----|----|
| | 小学生 | 30代以下 | 40代 | 50代 | 60代以上 | | | |
| ①非常食 | 12 | 2 | 4 | 3 | 17 | 0 | 38 | |
| ②ラジオ | 11 | 3 | 9 | 11 | 47 | 0 | 81 | |
| ③懐中電灯 | 42 | 6 | 19 | 25 | 79 | 0 | 171 | |
| ④避難経路、避難場所の把握 | 18 | 3 | 9 | 21 | 87 | 0 | 138 | |
| ⑤インターネットなどでの情報の入手方法の把握 | 3 | 2 | 2 | 2 | 5 | 0 | 14 | |
| ⑥災害時の危険箇所の把握 | 9 | 2 | 8 | 11 | 29 | 0 | 59 | |
| ⑦備えていない | 28 | 5 | 4 | 8 | 13 | 1 | 59 | |
| ⑧その他 | 30 | 0 | 0 | 1 | 3 | 0 | 34 | |
| 回答者数 | 104 | 13 | 24 | 39 | 125 | 1 | 306 | |



○その他の自由回答

- ・ 衣類等
- ・ 発電機・ハム
- ・ 薬
- ・ 避難場所については我家独自で定めている（行政で定めている所まで遠い為）

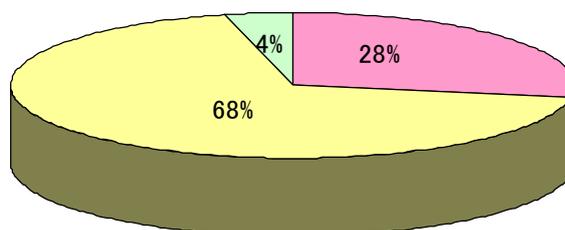
【回答の傾向】

- 「懐中電灯」、「ラジオ」など、昔ながらの備えが中心であり、「インターネット」などの活用率は低い。
- 近年、災害が発生していないため、若年層に限らず「避難経路や避難場所の把握」をしている人は多いが、防災ハザードマップの認知度が低いため（問 15 参照）「災害時の危険箇所の把握」をしている人は少ない。

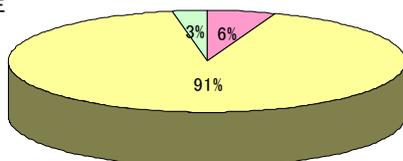
問15. 島根県河川課のホームページ (<http://www.pref.shimane.lg.jp/kasen/>) による川の水位や雨量の情報、浜田市から配布されている防災ハザードマップなど川の安全に関する情報をご存知ですか？

| 項目 | 小学生 | | 30代以下 | | 40代 | | 50代 | | 60代以上 | | 無回答 | 合計 | |
|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 人数 (人) | 割合 (%) | 人数 (人) | 人数 (人) | 割合 (%) |
| ①知っている | 6 | 6% | 4 | 31% | 10 | 42% | 15 | 38% | 53 | 42% | 0 | 88 | 28% |
| ②知らない | 100 | 92% | 9 | 69% | 14 | 58% | 25 | 63% | 69 | 55% | 1 | 218 | 69% |
| ③無回答 | 3 | 3% | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% | 4 | 3% | 5 | 12 | 4% |

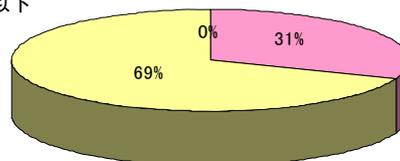
全体



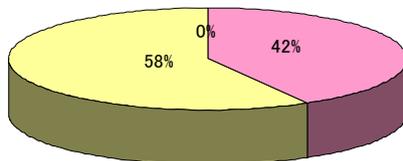
小学生



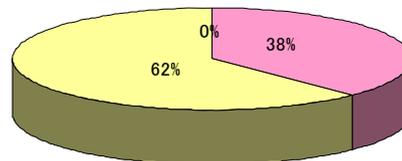
30代以下



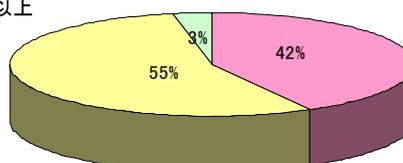
40代



50代



60代以上

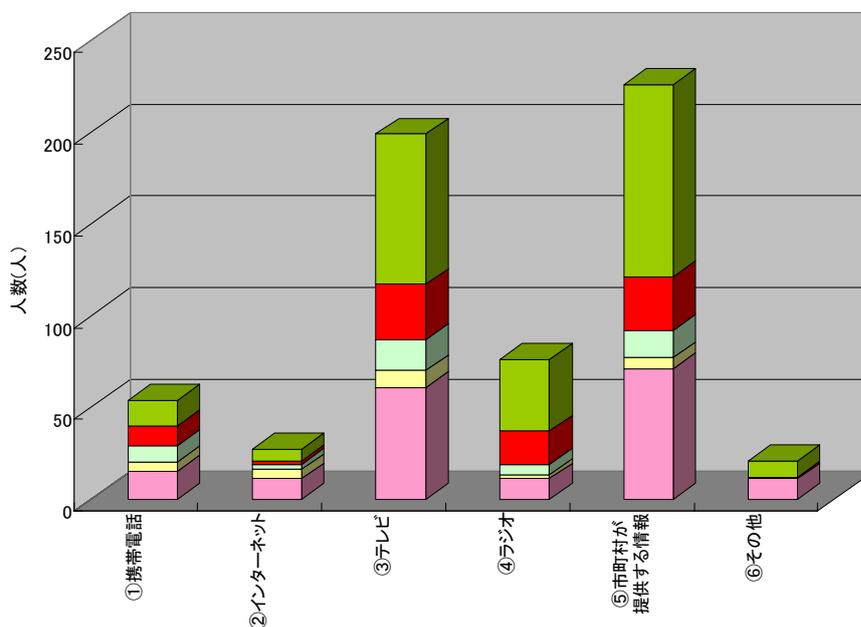


【回答の傾向】

- 「ホームページでの川の水位や雨量の情報」、「ハザードマップ」の認知度は低い。
- 特に「ハザードマップ」については、各戸配布されているにもかかわらず認知度が低い。

問16. 洪水時にはどのような方法で情報を入手しますか？（複数回答可）

| 項目 | 人数（人） | | | | | | 無回答 | 合計 |
|-------------|-------|-------|-----|-----|-------|---|-----|----|
| | 小学生 | 30代以下 | 40代 | 50代 | 60代以上 | | | |
| ①携帯電話 | 15 | 5 | 9 | 11 | 14 | 0 | 54 | |
| ②インターネット | 11 | 5 | 3 | 2 | 6 | 0 | 27 | |
| ③テレビ | 61 | 9 | 17 | 30 | 82 | 1 | 200 | |
| ④ラジオ | 11 | 2 | 6 | 18 | 39 | 0 | 76 | |
| ⑤市町村が提供する情報 | 71 | 6 | 15 | 29 | 105 | 0 | 226 | |
| ⑥その他 | 11 | 0 | 0 | 1 | 9 | 0 | 21 | |
| 回答者数 | 106 | 13 | 24 | 39 | 125 | 1 | 308 | |



○その他の自由回答

- ・ 近所の居住者等の行動
- ・ 無線
- ・ ケーブルテレビ、カメラ
- ・ 新聞
- ・ 水の量
- ・ 自分の眼で確かめる
- ・ 雨の程度

【回答の傾向】

- 若年層および年配層ともに「テレビ」および「市町村が提供する情報」（防災行政無線）を頼りにしている傾向がある。
- インターネットを通じ自主的に取得できるリアルタイムでの水位や雨量の情報取得の普及は低い。

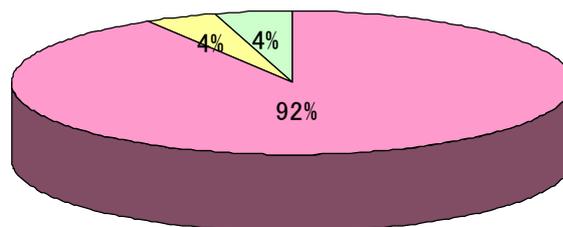
○ 三隅川の洪水対策についてお聞きします。

問 17. 昭和58年の洪水により三隅川流域全体に大きな被害を受けたことをご存知ですか？

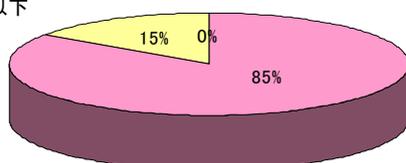
(小学生は対象外)

| 項目 | 年代 | 小学生 | | 30代以下 | | 40代 | | 50代 | | 60代以上 | | 無回答 | 合計 | |
|--------|----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | | 人数 (人) | 割合 (%) | 人数 (人) | 人数 (人) | 割合 (%) |
| ①知っている | | | | 11 | 85% | 19 | 79% | 37 | 93% | 123 | 98% | 1 | 191 | 91% |
| ②知らない | | | | 2 | 15% | 3 | 13% | 3 | 8% | 1 | 1% | 0 | 9 | 4% |
| ③無回答 | | | | 0 | 0% | 2 | 8% | 0 | 0% | 2 | 2% | 5 | 9 | 4% |

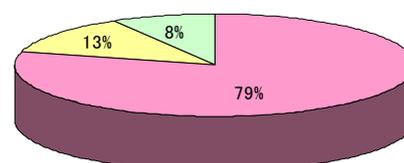
全体



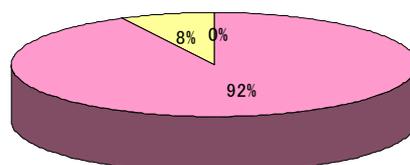
30代以下



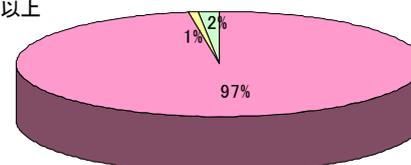
40代



50代



60代以上

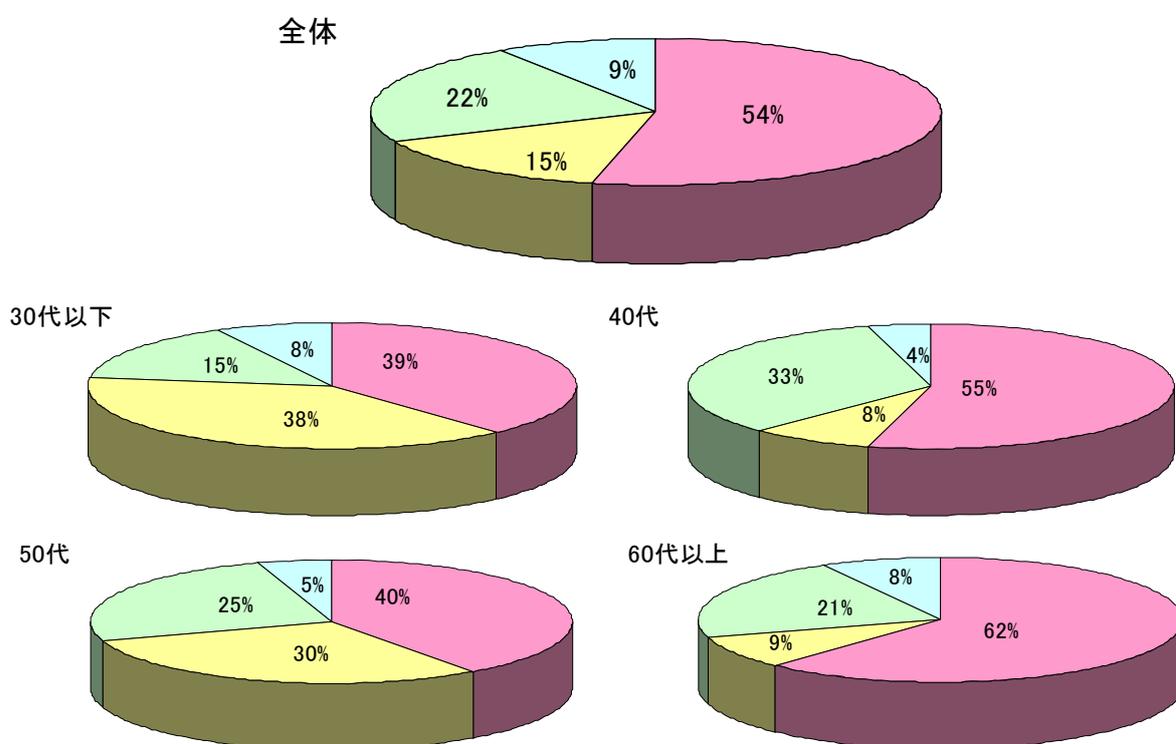


【回答の傾向】

- 被災経験がない世代においても、「昭和58年災害」は認知されている。
- 一部の「知らない」と回答した人は、他地域からの転入者とも考えられる。

問18. 昭和58年のような大水害を起こさないためには今後も川の整備が必要です。島根県ではコストや環境、生活への影響を考え、矢原川ダム建設を計画していますが、必要であると思いますか？（小学生は対象外）

| 項目 | 小学生 | | 30代以下 | | 40代 | | 50代 | | 60代以上 | | 無回答 人数 (人) | 合計 | |
|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------------|-----------|-----------|
| | 人数 (人) | 割合 (%) | | 人数 (人) | 割合 (%) |
| ①必要である | | | 5 | 38% | 13 | 54% | 16 | 40% | 78 | 62% | 0 | 112 | 54% |
| ②必要でない | | | 5 | 38% | 2 | 8% | 12 | 30% | 11 | 9% | 1 | 31 | 15% |
| ③分からない | | | 2 | 15% | 8 | 33% | 10 | 25% | 27 | 21% | 0 | 47 | 22% |
| ④無回答 | | | 1 | 8% | 1 | 4% | 2 | 5% | 10 | 8% | 5 | 19 | 9% |

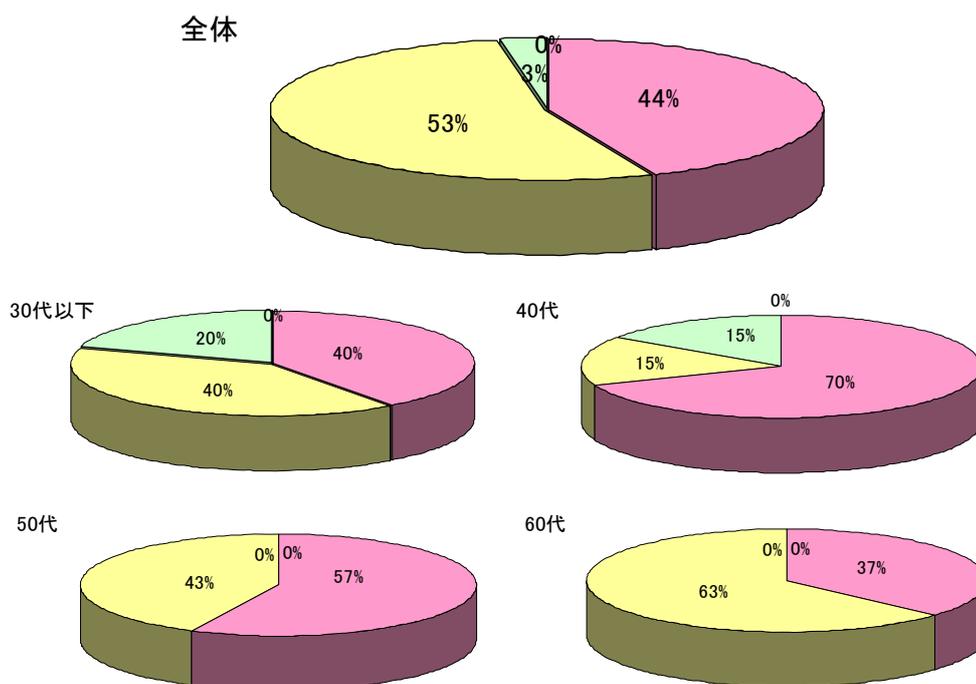


【回答の傾向】

- 全体では、「必要である」の回答が多い。特に災害経験者である40代以上においては、ダム建設が必要との認識が強い。
- 30代以下では同数、50代では「必要である」がやや上回る。

問19. 問18で①「必要である」と答えた方にお聞きします。矢原川ダムに何を望みますか？
(小学生は対象外)

| 項目 | 小学生 | | 30代以下 | | 40代 | | 50代 | | 60代以上 | | 無回答 人数 (人) | 合計 | |
|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------------|-----------|-----------|
| | 人数 (人) | 割合 (%) | | 人数 (人) | 割合 (%) |
| ①河川環境を保全する | | | 2 | 40% | 9 | 69% | 8 | 57% | 26 | 37% | 0 | 45 | 44% |
| ②ダムを早く造る | | | 2 | 40% | 2 | 15% | 6 | 43% | 45 | 63% | 0 | 55 | 53% |
| ③コスト縮減に努める | | | 1 | 20% | 2 | 15% | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 3 | 3% |
| ④その他 | | | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0 | 0% |



○その他の自由回答

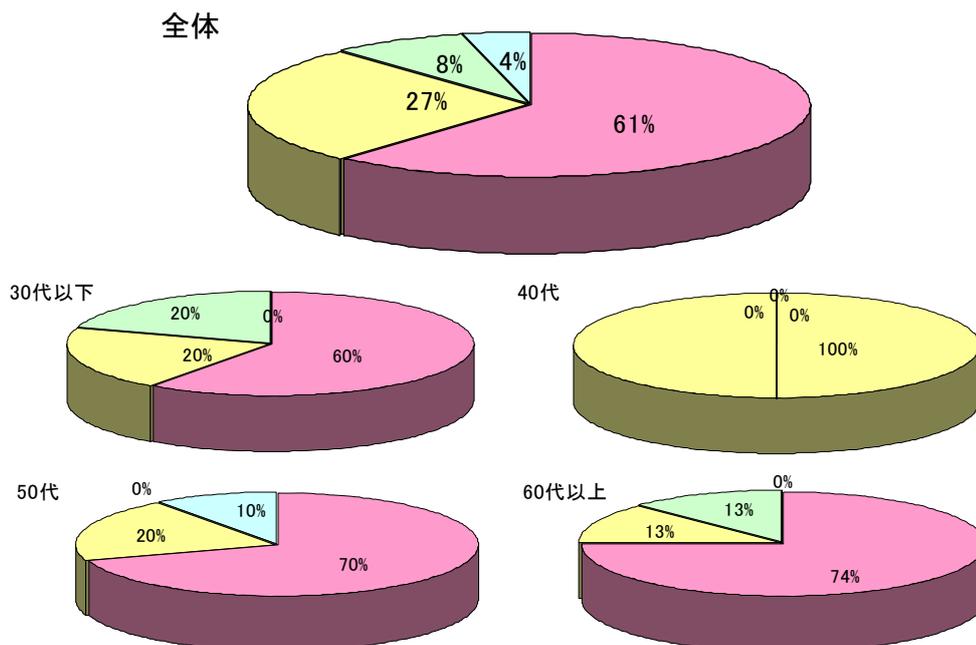
- ・ ダムを造っても、自然は壊れませんか、でも洪水対策が必要だと思います
- ・ 過去 58 年水害で自家流失
- ・ 防災ダムなら良い
- ・ 水際に行くまでの草が凄い、危険
- ・ ダム建設に年月がかかりすぎる
- ・ 自然環境の良い川
- ・ 無駄使いないよう管理しながら工事をしてほしいです
- ・ 河川環境の保全をする

【回答の傾向】

- 全体としては、ダムの早期完成を望む意見が多い。
- 災害経験者である年配者層は、特にダムの早期完成を願っている。
- マスコミ等の環境に関する情報等により、環境に対する意識も高い。
- コスト縮減に対する回答は少ないが、当然行われるという意識があると思われる。

問20. 問18で②「必要でない」と答えた方にお聞きします。必要でない理由は何ですか？
 (小学生は対象外)

| 項目 | 小学生 | | 30代以下 | | 40代 | | 50代 | | 60代以上 | | 無回答 | 合計 | |
|---------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 人数 (人) | 割合 (%) | 人数 (人) | 人数 (人) | 割合 (%) |
| ①これ以上の洪水対策は不要 | | | 3 | 60% | 0 | 0% | 7 | 70% | 6 | 75% | 0 | 16 | 62% |
| ②コストはかかってもダム以外の洪水対策 | | | 1 | 20% | 2 | 100% | 2 | 20% | 1 | 13% | 1 | 7 | 27% |
| ③特に考えはない | | | 1 | 20% | 0 | 0% | 0 | 0% | 1 | 13% | 0 | 2 | 8% |
| ④その他 | | | 0 | 0% | 0 | 0% | 1 | 10% | 0 | 0% | 0 | 1 | 4% |



○その他の自由回答

- ・ 護岸整備が早急
- ・ 堆積物の除去が早急
- ・ 三隅川の水質が悪くなるから
- ・ 自然破壊が大きい
- ・ 魚が泳ぐ川でなくなる

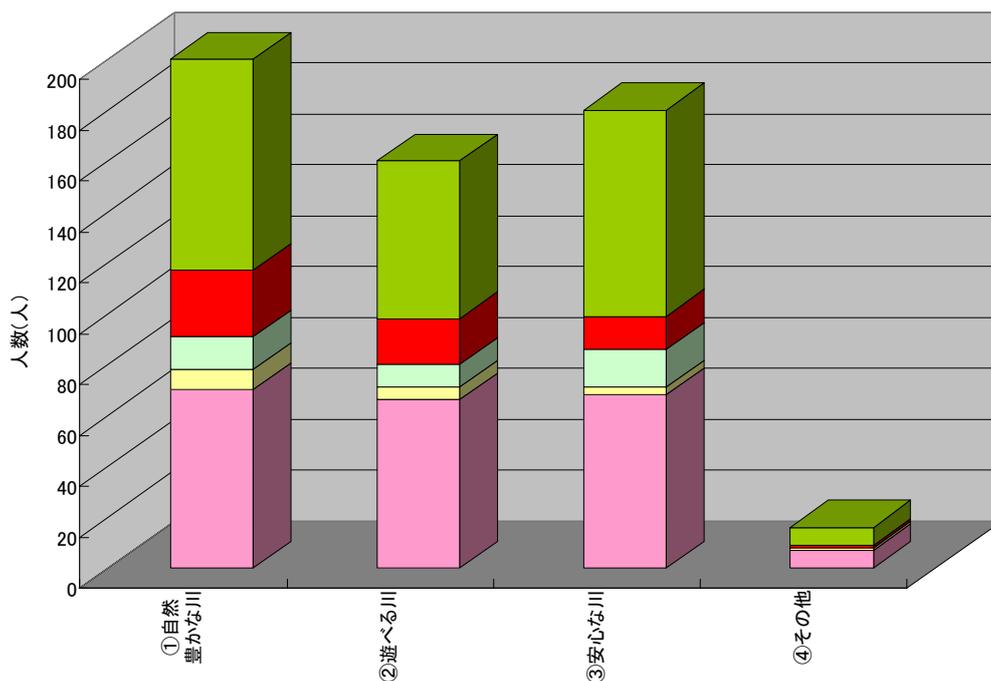
【回答の傾向】

- 「これ以上の洪水対策は不要」という回答が多いのは、近年災害がないことに起因していると思われる。
- 環境に対する懸念から、ダム以外の洪水対策を望む意見もある。

○ 今後の三隅川（水系）の川づくりについてお聞きします。

問 2 1. 三隅川をどのような川にしたいですか？また該当番号の具体的なイメージをお書きください。（複数回答可） 例：①（アユがたくさん泳ぐ川）

| 項目 | 人数（人） | | | | | | 無回答 | 合計 |
|----------|-------|-------|-----|-----|-------|---|-----|----|
| | 小学生 | 30代以下 | 40代 | 50代 | 60代以上 | | | |
| ①自然 豊かな川 | 70 | 8 | 13 | 26 | 83 | 0 | 200 | |
| ②遊べる川 | 66 | 5 | 9 | 18 | 62 | 1 | 161 | |
| ③安心な川 | 68 | 3 | 15 | 13 | 81 | 0 | 180 | |
| ④その他 | 7 | 1 | 0 | 1 | 7 | 0 | 16 | |
| 回答者数 | 106 | 11 | 24 | 34 | 119 | 1 | 295 | |



【回答の傾向】

- 「自然豊かな川」を目指す人が多く、具体的なイメージとしてはアユ等の魚類がたくさん泳ぐ川を望む意見が多い。
- 「遊べる川」のイメージとしては子供たちが安心して遊べる川、「安心な川」のイメージとしては水害のない川を望む意見が多い。

① 自然豊かな川のイメージ

【回答の傾向】

- ・ 魚類および水棲生物が多く生息し、ホタルの飛び交う川。
- ・ 自然河道の復元
- ・ 川とふれあえる親水護岸の整備

- ・ アユ、ヤマメ、うなぎなどが泳ぐ川（小学生 13 名、一般 30 名）
- ・ 鮎が安全な状態ですめる川（現在三隅川の魚はきたないとの声がある。）（一般 1 名）
- ・ 魚がたくさん棲み、カワセミが飛来する川。昭和 58 年の水害前はアシやガマの穂が生えていた。（一般 1 名）
- ・ 魚の見える川（一般 1 名）
- ・ いろいろな魚が泳ぐ県内 2 級河川の中で一番きれいな川（一般 1 名）
- ・ 魚がたくさんいて、広くて、急に深くない川（小学生 3 名）
- ・ 川とふれあえる川（小学生 1 名）
- ・ ホタルが飛ぶ川（一般 4 名）
- ・ 水棲生物の種類が多い川（一般 4 名）
- ・ コンクリートでかためたような川でなく昔のような河原のある川。（一般 2 名）
- ・ 流れを良くするための川底の草刈り（一般 4 名）
- ・ 今の川はきたないため、夏休み等に遊べる川（一般 1 名）
- ・ 自然豊かな川（一般 9 名）
- ・ 水量が豊かであるおっている。（一般 1 名）
- ・ 昭和 20 年代には多くの生物が棲み、夏にはよく泳ぐほど自然があった。二度と洪水がない様に家屋のみならず、田畑にも水がこないようにする。（一般 1 名）
- ・ 桜並木など堤防の植栽（もみじ、ケヤキなど）（一般 1 名）
- ・ 川があるから水郷です。（一般 1 名）
- ・ 瀬あり、淵あり、自然な河岸。（一般 1 名）
- ・ 他の生き物との共存（一般 1 名）
- ・ 今の川は両岸がブロック積みで川にすぐ出入りできない。以前の様にどこからでも入りやすい川岸にしてほしい。（一般 1 名）

② 遊べる川のイメージ

【回答の傾向】

- ・ 水遊びができる川
- ・ 雑草やゴミの無い川
- ・ 河川敷の整備

- ・ 子供たちが川あそびできる川（小学生 10 名、一般 19 名）
- ・ 浅瀬で遊ばれる川（一般 2 名）
- ・ 水に親しむ(水泳等)（小学生 1 名、一般 5 名）
- ・ 現在では子供の川遊びなど望めないと思うが昔は遊び場が豊かで年代にあう場所があり楽しかった。（一般 1 名）
- ・ カヌーなどで遊べる川（小学生 1 名、一般 2 名）
- ・ ここなら遊んでいいよ!と言える安心な場所や、夏には外から来ても遊びや釣りもいいが、今は存在しない。（一般 1 名）
- ・ 現在は草が背丈以上に伸びて川に近づくこともできない。（一般 1 名）
- ・ 川辺はコンクリートでなく昔の様に自然な草が生えている川（一般 2 名）
- ・ 草のない河原のある川（一般 4 名）
- ・ 川辺までかんたんに行ける川（一般 3 名）
- ・ 雑草が無くゴミも無くきれいな川（小学生 4 名、一般 5 名）
- ・ 河川敷を公園にする。川をきれいにして、川原において、遊べる様に！（一般 1 名）
- ・ 川があるから山に登ります。（一般 1 名）
- ・ 河川敷を整備し公園化する。（一般 3 名）
- ・ 河川敷の活用・ミニ運動場・散歩コース等、中洲を藪や森にしないように管理して欲しい。（一般 1 名）

③ 安全な川のイメージ

【回答の傾向】

- ・ 水害がない川
- ・ 水質のよい川
- ・ 流れが緩やかで、深くない川
- ・ ゴミや危険な物がない川
- ・ 草刈が行われている川

- ・ 水害のない川（一般 14 名）
- ・ 安心な川（一般 4 名）
- ・ 洪水で壊れた場所は元どおりに直す、水は昔のように右・左につき当たって流れるので、そこを補強するのが良いのではないか。（一般 1 名）
- ・ 治水整備をする。発電所は良くない。（一般 1 名）
- ・ 洪水の起こらない川。但し河原に草木が生い茂っているのである程度の放流が必要（一般 1 名）
- ・ 出水時の速報がすぐわかる川（一般 2 名）
- ・ 危険区域はしっかり表示する（一般 1 名）
- ・ 58 災害で家屋流失の被害者である。洪水対策を確実にすること（一般 3 名）
- ・ 安心な水質の川（一般 11 名）
- ・ きれいで整備されている川、ホテルの飛びかう川（一般 7 名）
- ・ 安心して水を飲むことができる川（小学生 2 名、一般 4 名）
- ・ 流れが緩やかで深くない川（小学生 2 名）
- ・ 危険な物がない川（小学生 12 名）
- ・ 散歩が楽しめるような川（一般 1 名）
- ・ 川の中の浚渫、雑草の処理で水の流れをスムーズにすること。（一般 4 名）

④ その他のイメージ

- ・ 外来魚・水鳥の駆除、アユの育成（一般 1 名）
- ・ 三隅川発電所が三隅川水系を悪くしている（一般 1 名）
- ・ ダムに関係なく、県道 48 号の早期改良と、水流に抵抗の無い川にして、一早期に！（一般 1 名）
- ・ 三隅の町のように澄んだ川の水が流れている川に大木がなく見通しの良い川（一般 1 名）
- ・ 今のまま（一般 1 名）
- ・ ヨシのない河原の復元、木都賀ダムの水質改善、発電放水時悪臭がする（一般 1 名）
- ・ 御部ダムを「流水型ダム」にすれば水もきれいになる（一般 1 名）
- ・ 流れが安心して飛び込みができるような川（小学生 4 名）

3) アンケート内容及び結果

三隅川水系は過去に甚大な被害が発生していることから、矢原川ダムの早期建設を望む意見が多かった。

また、親しみの持てる川として、環境に関する意見も多く、河川美化への期待が寄せられている。

アユの泳ぐ自然豊かな河川環境を目指し、流域住民や関係機関との連携を図りながら、安全で安心な暮らしを守るとともに、地域のかげがえのない財産として住民に親しまれるような、魅力ある川づくりを目指す。

参考・引用文献(順不同)

- ・「河川六法 監修/建設省河川局(1998年10月22日)」：株式会社 大成出版社
- ・「新しい河川制度の構築 監修/建設省河川局」：社団法人 日本河川協会
- ・「島根県の気象 平成19年」：松江地方気象台
- ・「中国地方土木地質図」：中国地方土木地質図編纂委員会
- ・「島根県現存植生図(1982)(1987)」：環境庁
- ・「日本の絶滅の恐れのある野生生物ーレッドデータブック」：環境省
- ・「改定しまねレッドデータブック(平成16年3月)」：島根県
- ・「国勢調査」：総務省統計局
- ・「島根県の地名鑑(第8次改訂版 参考資料編 昭和62年2月1日現在の市町村の概要)」
：島根県町村振興協会
- ・「第3回自然環境保全基礎調査(平成元年)」：環境庁
- ・「島根県観光動態調査結果表 平成15年」：島根県観光振興課
- ・「1/10細分区画土地利用データ」：日本地図センター
- ・「昭和58年7月豪雨災害の記録」：島根県

本書に掲載した下表の地図は、国土地理院発行の2万5千分1地形図、5万分1地形図、20万分1地勢図を使用したものである。

掲載箇所一覧表

| ページ | 図番 | タイトル | 図面の種類 |
|------|------|------------------|-----------|
| 付-7 | 図1-4 | 地勢図 | 20万分1地勢図 |
| 付-12 | 図1-7 | 調査位置図 | 5万分1地形図 |
| 付-26 | 図3-2 | 氾濫実績図(昭和58年7月洪水) | 2万5千分1地形図 |
| 付-31 | 図3-6 | 主な河川改修事業位置図 | 5万分1地形図 |
| 付-34 | 図3-7 | 取水施設位置図(ダム補給分) | 5万分1地形図 |